

教科	国語	履修学年	1	教科書 (出版社)	現代の国語(筑摩書房)
科目	現代の国語	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	新版 意味から学ぶ 頻出漢字3000 (第一学習社)
単位数	2				読解を深める 現代文単語 評論・小説 改訂版(桐原書店) 読解力を鍛える 現代文演習 基本(桐原書店) リテラ 速読レッスン 論理 vol. 1 (文英堂) 新訂版 最新国語便覧(浜島書店)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い		評価規準	時期 考查	
第2章 評論文への招待 ・ことばとは何か (内田 樹) ・デジタル社会 (黒崎政男)	情報を正確に読み取る。 - 抽象的なことがらをわかりやすく伝えるための技法を読み取る。 - 重要な用語に注意しながら読む習慣を身につける。	知 思 主	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 - 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 - 積極的に参加し、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	4 ～ 5月	一学期 中間 考查
第3章 ことばで伝える思いと 考え ・身体、この遠きもの (鷲田清一) ・贈り物と商品の違い (松村圭一郎)	書くことで世界とつながる。 - 抽象的な内容を説明する際、具体例を有効に用いて理解を助ける効果を学び、抽象的な概念を説明する力を身につける。 - 一般的なことばにカギカッコを付ける表現の効果について考える。 - 要約文の組み立て方を理解し、要約の作成に取り組む。	知 思 主	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすることができている。 - 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができている。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができている。 - 積極的に参加し、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	5 ～ 7月	一学期 期末 考查

第5章 「話し合い」から「議論」へ - 誰かの靴を履いてみる こと (ブレイディみかこ) 〈私〉時代のデモクラシー (宇野重規)	説得することばを身につける。 - 議論を成り立たせる土台や議論の進め方、何に注意したらいいかを学ぶ。 〈私たち〉の抱える問題点を議論するための姿勢を育てる。	知	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。 - 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。	9 ～ 10 月	二 学 期 中 間 考 査
第6章 「根拠」から「主張」へ - 魔術化する科学技術 (若林幹夫) - マルジャーナの知恵 (岩井克人)	隠された情報を読み解く。 - 相反した分野を対比的に論じる本文を読み、論の展開に注目して要約する。 - 引用の効果的な用い方に注目する。	知	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。	10 ～ 12 月	二 学 期 期 末 考 査
第9章 主張の論理的な伝え方 来るべき民主主義 (國分功一郎)	筋道を立てて論述する。 哲学者のことばを手がかりに、ものごとを根本から問い直していく議論の組み立て方を学ぶ。	知	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。	1 ～ 3 月	学 年 末 考 査
第10章 複眼的な視点 - 開かれた文化 (岡真理) - リスクと近代社会 (大澤真幸)	さまざまな視点から読み解く - 具体例と対比を用いながら考察を深める論の構造を捉え、文化相対主義について理解する。 - 問いと答えを重ねる形で論を展開させる構造を丹念にたどりながら、近代が生み出したリスク社会について理解する。	知	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 文章の内容や構成、論理の展開、表現の仕方などを整理して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1 ～ 3 月	学 年 末 考 査
		思	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫できている。		
		主	積極的に参加し、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。		
		知	- 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 - 文章の内容や構成、論理の展開、表現の仕方などを整理して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		
		思	評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。		
		主	積極的に参加し、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。		

教科	国語	履修学年	1	教科書 (出版社)	言語文化(数研出版)
科目	言語文化	必修 または 選択	必修	副教材 など	四訂版 古文単語330(いっずな書店)
単位数	3		必修選択 自由選択		九訂版 体系古典文法(数研出版) 三訂版 体系古典文法学習ノート(数研出版) 三訂版 体系漢文(数研出版) 改訂版 体系漢文学習ノート(数研出版) ニューフェイス 古典1(第一学習社) 新訂版 最新国語便覧(浜島書店)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
説話 宇治拾遺物語 ・児のそら寝 ・絵仏師良秀	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについての基礎を理解する。	知 古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言)、古文特有の表現などの基礎的な事項について理解している。 思 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。 主 積極的に参加し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。	4 ～ 5月 一学期中間 考查
説話 宇治拾遺物語 ・柿の木に仏現ずること	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについての基礎を理解する。	知 古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言)、古文特有の表現などの基礎的な事項について理解している。 思 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。 主 積極的に参加し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。	5 ～ 7月 一学期期末 考查

歌物語 伊勢物語 ・芥川 ・東下り	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。	知	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言・助動詞・助詞)や和歌、古文特有の表現などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述や和歌を基に的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈を深め、表現の仕方を工夫している。
		主	粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。
入門 ・入門一 ・入門二	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解する。	知	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(訓読の基礎・書き下し文)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、作品内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	積極的に参加し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。
故事 ・矛盾(韓非子) ・狐借虎威(戦国策)	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	知	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	積極的に参加し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようと取り組んでいる。
近代小説(一) 羅生門(芥川龍之介)	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解し解釈することができる。 ことばがもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させる。	知	文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。
		思	・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えや思いを文章にしようとしている。
歌物語 伊勢物語 ・筒井筒	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。	知	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言・助動詞・助詞)や和歌、古文特有の表現などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述や和歌を基に的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈を深め、表現の仕方を工夫している。
		主	粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。
随筆(一) 徒然草 ・神無月のこと ・丹波に出雲といふ所あり ・奥山に猫またといふものありて ・同じ心ならん人と	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。	知	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言・助動詞・敬語の基礎)、古文特有の表現などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、内容や文章の構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして構成を整理し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。

5
～
7月

一学期
期末
考査

9
～
10月

二期
期中
間
考査

史伝 ・管鮑之交(十八史略) ・先従隗始(十八史略) ・鶏口牛後(十八史略)	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解するとともに、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	知 思 主	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。 進んで作品内容を理解し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようと取り組んでいる。	9 ～ 10月	二 学 期 中 間 考 査
日記文学 土佐日記 ・門出 ・帰京	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまりや古典常識、古文特有の表現などについて理解する。	知 思 主	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(助動詞・助詞)や古典常識、古文特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈を深め、表現の仕方を工夫している。 古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深め、正確に本文全体を解釈しようと取り組んでいる。		
和歌 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。	知 思 主	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(用言・助動詞)や和歌の修辞法、古文特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を的確に捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈を深め、表現の仕方を工夫している。 粘り強く和歌の内容を読み解き、今までの学習を生かし、正確に解釈しようとしている。	10 ～ 12月	二 学 期 期 末 考 査
文章 ・雑説(韓愈)	古典の世界に親しむために、作者が文章を執筆した意図について、歴史的背景を踏まえて考察し、作品や文章の文化的背景を理解する。	知 思 主	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して深く解釈し、表現の仕方を工夫している。 進んで作品内容を理解し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようと取り組んでいる。		
漢詩 ・静夜思(李白) ・送元二使安西(王維) ・月夜(杜甫) ・八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九(白居易)	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	知 思 主	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(書き下し文・句法)及び漢詩の形式、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品や詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。 進んで作品内容を理解し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、詩を解釈しようと取り組んでいる。		
詩歌 ・I was born(吉野弘)	作品の解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつことができる。	知 思 主	言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。 進んで作品内容を理解し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、詩を解釈しようと取り組んでいる。	1 ～ 3月	学 年 末 考 査

随筆(二) 枕草子 ・ありがたきものを ・雪のいと高う降りたるを ・中納言参り給ひて	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。	知	古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法(助動詞・助詞・敬語)、古文特有の表現や文章中に取り入れられた漢詩の摂取態度などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	・粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして、学習課題に沿って作者の機知や心情を理解し、正確に本文を解釈しようと取り組んでいる。
思想 論語 孟子	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解するとともに、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	知	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり(書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。
		思	・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を捉えている。 ・「書くこと」において、内容を理解して深く解釈し、表現の仕方を工夫している。
		主	粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文を解釈しようと取り組んでいる。

1
～
3
月

学
年
末
考
査

教科	地理歴史	履修学年	1	教科書 (出版社)	新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）
科目	地理総合	必修 または 選択	必修	副教材 など	新詳地理資料COMPLETE2024（帝国書院） 新地理総合ノート（帝国書院）
単位数	2		必修選択 自由選択		

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

1 基本的な地理的知識・技能を定着する。 2 習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を身に付ける。 3 主体的・積極的に学習し、地表面で展開される諸問題に対して主体的に考察する姿勢を身に付ける。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	知識の習得や知識の理解、資料を正しく利用できる力を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決してゆくための思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において主体的に学習に取り組んでいるか。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準		時期 考査	
地図と地理情報システム	地球上の位置と時差について正しく理解する。 主題図・一般図・統計地図などの地図・地球儀の役割と種類、利用法について理解する。 地理情報システムはどのように活用されているかを考える。	知	日常生活の中で見られる様々な地図の読図を基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。	1	学期
		思	地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方について多面的に考察し表現することができる。	中間	考査
		主	地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		
自然環境と防災	大地形や小地形などの世界の地形と、それが形成されるメカニズムと地域的特色を理解する。 そこで展開される人間の生活を理解し、自然災害への関心を高め、科学的に対応できる力を育成する。	知	生活の舞台となる陸地における地形とを形成する要因について理解している。 地形と災害の関係について理解している。	1	学期
		思	生活の舞台となる陸地における地形を構成する要因と自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、表現することができる。	期末	考査
		主	生活の舞台となる陸地における地形を構成する要因と自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、災害を減少させてゆく手立てについて主体的に取り組んでいる。		
自然環境と防災	気候帯・気候区別に世界の気候の地域的特色が現れるメカニズムを理解する。 そこで展開される人間の生活を理解し、自然災害への関心を高め、科学的に対応できる力を育成する。	知	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について理解している。 気候と災害の関係について理解している。	2	学期
		思	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について多面的に考察し、災害との関わりについて多面的に表現することができる。	中間	考査
		主	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について多面的に考察し、災害との関わりについて多面的に考察し、災害を減少させてゆく手立てについて主体的に取り組んでいる。		
多様な生活文化	世界の言語の違いが人々の生活にどのような影響を与えているかを知る。 宗教の分布と人間生活についての影響について、その歴史的背景について理解する。	知	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解している。	2	学期
		思	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解し、多面的に考察し表現することができる。	期末	考査
		主	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解し、多面的に考察し表現することができ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		

世界の産業と人々の生活	世界の農業地域の形成と地域的な特色についてその歴史的展開について理解する。	知	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解している。	2	学期
	世界の工業地域の形成と地域的な特色についてその歴史的な展開について理解する。	思	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解し、多面的に考察し表現することができる。	期末	考查
		主	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解し、多面的に考察し表現することができ、よりよい産業社会の在り方を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		
地球的課題と国際協力	地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的な特色を理解する。	知	地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的な特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解している。	3	学期
	そうした問題が生じる要因を正しく理解させる。	思	地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的な特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解し、多面的に考察し表現することができる。	学年末	考查
		主	地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的な特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解し、多面的に考察しよりよい人間社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		

教科	地理歴史	履修学年	1	教科書 (出版社)	歴史総合 近代から現代へ (山川出版)
科目	歴史総合	必修 または 選択	必修	副教材 など	新詳 歴史総合 (浜島書店)
単位数	2		必修選択 自由選択		山川歴史総合用語解説 (山川出版社) 歴史総合 要点チェック (山川出版社)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそ の中の日本を広く相互的な 視野から捉え、現代的な諸課 題の形成に関わる近現代の 歴史を理解するとともに、諸 資料から歴史に関する様々 な情報を適切かつ効果的に 調べまとめる技能を身に付 けている。	近現代の歴史の変化に関わ る事象の意味や意義、特色な どを、概念などを活用して多 面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握 し解決を視野に入れて構想 したりする力や、考察、構想 したことを効果的に説明し たり、それらを基に議論し たりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わ る諸事象について、よりよ い社会の実現を視野に課題 を主体的に追究、解決しよ うとする態度や、多面的・ 多角的な考察や深い理解を 通して涵養される日本国民 としての自覚、我が国の歴 史に対する愛情、他国や他 国の文化を尊重することの 大切さについての自覚を深 める。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準		時期 考查	
近代ヨーロッパ・ アメリカ世界の成立 明治維新と日本の立憲 体制	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解させる。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。	知	・主権国家体制の形成や大航海時代以降の欧米世界の変化とその過程を理解している。 ・開国を転換点に明治政府が成立し、諸改革によって急速な近代化がすすめられた経緯を理解している。	1	学期
		思	・市民革命、産業革命による社会の変化に着目し、現代につながる問題がどのように生じたかを考察し表現している。 ・明治維新以降の諸改革により、どのように近代国家へ変化したかを考察し表現している。	中間	考 査
		主	・資本主義の展開や国際分業体制の形成により世界各地でおこった変化や影響について追究しようとしている。 ・明治維新による国家体制の変容や現代社会につながる諸課題について主体的に追究しようとしている。		
帝国主義の展開とアジア 第一次世界大戦と大衆世界	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟などの成立を基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解させる。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解させる。	知	・帝国主義政策による列強諸国の植民地化から第一次世界大戦後の国際体制成立までの過程を理解している。 ・日清・日露戦争による日本の対外進出がアジア各地におよぼした影響について理解している。	1	学期
		思	・帝国主義政策から第一次世界大戦後の主要国の動向に着目し、各国の比較をふまえながら考察している。 ・日清・日露戦争後の日本政府と政党の動きについて、その推移を考察している。	期末	考 査
		主	・第一次世界大戦後の国際秩序の変化や大衆化が現代社会におよぼした影響について追究しようとしている。 ・国内で大衆の政治参加や労働運動、社会運動が活発化した背景を国際社会の状況と比較し追究しようとしている。		

経済危機と第二次世界大戦 戦後の国際秩序と日本の改革	・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解させる。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解させる。	知	・世界恐慌、ファシズムの台頭に着目しながら、第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯を理解している。 ・アメリカとの対立を背景とし、日本が参戦していく過程について理解している。	2	学期
		思	・ファシズム体制の形成に着目し、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、自分の言葉で表現している。 ・戦後の国際関係に着目し、占領下の日本においてどのように民主化がすすめられたかを考察している。	中間	
		主	・戦後処理や新たな国際秩序の形成を背景とし、国際関係がどう進展していったのか追究しようとしている。 ・占領下における民主化と日本の国際社会への復帰までの過程について国際関係に着目し追究しようとしている。		
冷戦と世界経済	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解させる。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解させる。	知	・国際協調という戦後の理想から、東西冷戦という現実への転換および第三世界の形成に至る過程を理解している。 ・日本の戦後復興と高度経済成長に至る経緯について、国際情勢や社会変化に着目して理解している。	2	学期
		思	・冷戦がヨーロッパやアジア各国におよぼした政治的、経済的影響と課題について考察し、表現している。 ・冷戦下の日本の動向について、政治・経済との関連や諸地域の動向とを比較して多面的に考察し、表現している。	期末	考查
		主	・冷戦期における各国の動向と今日的課題との関連について整理し、解決策について追究しようとしている。 ・日本の高度経済成長における功罪について、国内外の情勢と関連させて問題点を追及しようとしている。		
グローバル化する世界 現代の課題	・石油危機・アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解させる。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解させる。	知	・冷戦終結が民主化や地域統合の進展、新たな地域紛争の発生など様々な影響をおよぼしたことを理解している。 ・石油危機後の日本国内の政治体制や経済政策、外交関係の変容について理解している。	3	学期
		思	・グローバル化の進展に伴う国際社会の諸課題について、歴史的経緯を踏まえ解決策について考察している。 ・経済大国となった日本が抱える国内的な課題と、国際社会で果たすべき役割について考察し、表現している。	学年末	考查
		主	・グローバル化に伴う多様性の容認や反グローバル化への対応など諸課題に対する解決策を追究しようとしている。 ・グローバル化の中で日本の国際的役割やより良い他国との関係の築き方について追究しようとしている。		

教科	数 学	履修学年	1	教科書 (出版社)	高等学校 数学 I (数研出版)
科目	数学 I	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	高等学校 数学 I 入門ノート (数研出版)
単位数	3				教科書傍用 4 プロセス 数学 I + A (数研出版) チャート式 基礎からの数学 I + A (数研出版) 短期完成 データの分析ノート (数研出版) 項目別学習ノート 三角関数 (数研出版)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

数学的な見方・考え方を働かせ、 数学的活動を通して、数学的に考 察する資質・能力を育成すること を目指す。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	数と式、図形と計量、2次関数お よびデータの分析についての基 本的な概念や原理・法則を体系的 に理解するとともに、事象を数学 化したり、数学的に解釈したり、 数学的に表現・処理する技能を身 に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり適切に 変形したりする力、図形の性質や 計量について論理的に考察し表 現する力、関数関係について式や グラフを相互に関連付けて考察 する力、データを分析し問題を解 決する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用 しようとする態度、粘り強く考え 数学的論拠に基づいて判断しよ うとする態度、問題解決の過程を 振り返って考察を深めたり、評 価、改善したりしようとする態度 や創造性の基礎を養う。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查	
第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式 ・不等式	式を、目的に応じて整理したり、1つの文字に置き換えたりして、多面的に捉えたり変形したりする。 実数を体系化して理解を深めるとともに、無理数などの四則演算ができるようにする。 不等式の解の意味や性質について理解するとともに、1次不等式を解くことで、具体的な事象の問題解決に役立てる。	知 ・単項式・多項式や次数、降べきの順などの用語を理解し、式を整理したり計算したりすることができる。 ・因数分解を行うのに、公式を利用したり、文字の置き換えを利用したりすることができる。 ・絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。 思 ・式を1つの文字に置き換えて、式の計算を簡略化することができる。 ・複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ・絶対値記号を含む複雑な式について、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 主 ・単項式、多項式とその整理の仕方に関心を持ち、考察しようとする。 ・式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ・絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組もうとする。	4 ～ 5月	1 学期 中間 考 査
第2章 集合と命題 2 命題と条件 3 命題と証明 (1 集合 は、数学Aで扱う)	集合と命題に関する基本的な概念を正しく理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	知 ・命題や条件に関する基本的な意味を理解し、命題の真偽を決定することができる。 ・対偶による証明法や背理法の仕組みを理解している。 思 ・命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けて考察することができる。 ・命題の条件や結論に着目し、証明法を適切に判断して命題を証明することができる。 主 ・命題と集合との関係について積極的に理解しようとする。 ・直接証明法では難しい命題も、対偶による証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味や関心をもち、実際に証明しようとする。	6月	1 学期 期 末 考 査
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、グラフをかくなどして多面的に考察する。また、最大値や最小値を求めることができるようにする。	知 ・$y = f(x)$の表記や概念を理解している。 ・$ax^2 + bx + c$ を $a(x - p)^2 + q$ に変形し、2次関数のグラフの軸と頂点を求め、グラフをかくことができる。 ・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・与えられた条件から2次関数を求めることができる。	6 ～ 9月	1 学期 期 末

第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。また、2次不等式を解くことで、具体的な事象の問題解決に役立てる。	・2次方程式、2次不等式を解くことができる。 ・2次方程式において判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ・2次関数の特徴について、表、式、グラフ、平行移動等に関連付けて、多面的に考察することができる。 ・具体的な事象や、定義域が変化するとき、2次関数のグラフが動くときの最大値、最小値について考察することができる。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察することができる。 ・2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ・2次関数の頂点や軸の式、平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ・身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	・2学期中間考査
第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	三角比やその基本的な性質及び三角比の相互関係について理解し、日常的な事象を数学的に捉え、三角比を活用して問題解決をする力を培う。 図形の構成要素(辺や角)の関係を、三角比を用いて表現し、定理や公式を活用して問題解決に役立てる。	・三角比の定義を理解し、三角比の値や辺の長さを求めることができる。 ・三角比の相互関係の公式や、角度の変換公式を用いて、三角比の値を求めることができる。 ・正弦定理、余弦定理、面積を求める公式を理解し、角の大きさ、辺の長さや面積を求めることができる。また、空間図形の計量に応用することができる。 ・具体的な事象を三角比の問題として捉えることができる。 ・鋭角の三角比を、鈍角に拡張して考察することができる。 ・三角形の辺の長さと角の大きさと正弦定理、余弦定理の関係を考察することができる。 ・様々な平面図形に三角比の考え方を応用し問題を解くことができる。 ・空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察をすることができる。 ・日常の事象や社会の事象などに三角比や正弦定理、余弦定理を活用しようとする。 ・三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ・正弦定理、余弦定理の図形的意味を考察し、それぞれの定理を導こうとする。 ・三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。また、様々な三角形の面積の公式があることに興味・関心をもち、調べたりまとめたりしようとする。	2学期中間・期末考査 9月11月
第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	データの散らばりや傾向を数値化したり、適切な統計量やグラフ、手法などにより分析をしてデータの傾向を読み取ったりできるようにする。 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験結果などを通して判断したり、批判的に考察したりできるようにする。	・平均値や中央値、最頻値、四分位数などの定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・箱ひげ図を用いてデータの分布を比較することができる。 ・分散、標準偏差の定義と意味を理解し、それらを求めることができる。 ・相関係数の意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 ・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ・変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。 ・複数のデータを、散らばりや変量間の関係に着目し、適切な方法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	2学期期末考査 11月12月

			・変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察しようとする。		
発展「三角関数」 第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用 第2節 加法定理 6 加法定理 7 加法定理の応用	三角比から発展させ、角の概念を一般角まで拡張し、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	知	・弧度法の定義を理解できる。また、度数法と弧度法を換算することができる。 ・一般角に拡張し、動径を図示することができる。 ・単位円を利用して、弧度法による角度や三角関数の値を求めることができる。 ・三角関数の相互関係を利用して、式の変形や式の値を求めることができる。 ・三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、周期や最大値・最小値を求めることができる。 ・加法定理を利用して、様々な値を求めることができる。また、正接の加法定理を利用して、2直線のなす角について考察することができる。 ・2倍角、半角の公式などを利用して、三角関数の値を求めたり、等式の証明や方程式の解法に応用したりすることができる。 ・三角関数の合成を利用して、方程式を解いたり、関数の最大値・最小値を求めたりすることができる。	1 2 ～ 3 月	学 年 末 考 査
		思	・三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。 ・三角関数の性質を、単位円やグラフを用いて考察することができる。 ・三角関数を含む方程式・不等式を溶く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。 ・変数を置き換えることで、三角関数を含む方程式や三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 ・2倍角、半角の公式を活用して、三角関数を含むやや複雑な方程式や関数の最大値・最小値を考察することができる。		
		主	・弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。 ・三角関数の特徴的なグラフに興味・関心をもち、より正確なグラフをかこうとする。 ・加法定理を、座標平面上における2点間の距離の公式を利用して証明しようとする。 ・加法定理から、2倍角、半角の公式や、和→積・積→和公式、3倍角の公式が導けることに興味・関心をもつ。		

教科	数 学	履修学年	1	教科書 (出版社)	高等学校 数学A (数研出版)
科目	数学A	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	教科書傍用 4プロセス 数学I + A (数研出版)
単位数	2				チャート式 基礎からの数学I + A (数研出版) 短期完成 図形の性質ノート (数研出版) 短期完成 整数の性質ノート (数研出版)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

数学的な見方・考え方を働かせ、 数学的活動を通して、数学的に考 察する資質・能力を育成すること を目指す。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	図形の性質、場合の数と確率につ いての基本的な概念や原理、法則 を体系的に理解するとともに、事 象を数学化したり、数学的に解釈 したり、数学的に表現、処理した りする技能を身に付けるように する。	図形の性質を見だし、論理的に 考察する力、不確実な事象に着目 し、確率の性質などに基づいて事 象の起こりやすさを判断する力、 事象に数学の構造を見だし、数 理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用 しようとする態度、粘り強く考え 数学的論拠に基づいて判断する 態度、問題解決の過程を振り返っ て考察を深めたり、評価、改善し たりしようとする態度や創造性 の基礎を養う。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本的性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	場合の数を求めるときの基本的 な考え方や確率についての理 解を深め、不確実な事象を数 理的にとらえることの有用性 を認識し、それを積極的に活用 する。	知 ・和集合や補集合について理解し、式やベン図を活用してその要素の個数を求めることができる。 ・順列、円順列、重複順列の公式を理解し、活用することができる。 ・組合せの公式を理解し、活用することができる。 ・確率の基本的性質を理解し、和事象や余事象の確率を求めることができる。 ・独立試行や反復試行の確率、条件付き確率を公式や定理を用いて求めることができる。 ・期待値の定義を理解し、求めることができる。	1 学 期 中 間 ・ 期 末 考 査 4 月 7 月
		思 ・自然数の正の約数の個数や、$n!$ に含まれる特定の素因数の個数を数える方法を考察することができる。 ・条件が付く順列や組合せ、円順列などを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ・独立な試行を、具体例から直観的に考えることができる。 ・反復試行の確率の公式の成り立ちを考えることができる。 ・既習の確率と条件付き確率の違いを、図や表などを用いて考察することができる。	
		主 ・集合を考えることで日常的な事柄などを集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ・加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 ・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心を持ち、積極的に活用しようとする。 ・日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。	
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形	三角形や円などの基本的な図 形の性質についての理解を深 め、様々な図形の見方ができ るようにするとともに、図形の 性質を論理的に考察し処理す ることができるようにする。	知 ・定理を適切に利用して、線分の比の長さを求めることができる。 ・三角形の内心、外心、重心の定義、性質を理解している。 ・三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解をしている。 ・チェバ、メネラウスの定理を理解し、図形の問題に活用することができる。 ・円周角の定理及び定理の逆を理解し、図形の問題に活用す	2 学 期 中 間 ・ 期 末 考 査 9 月 1 1 月

5 円と直線 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体		ることができる。 ・円の接線の性質や方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。 ・2つの円の半径と中心間の距離の関係と共有点の個数及び共通接線の本数との結び付きを理解している。 ・空間における2直線や平面の位置関係やなす角を理解している。 ・正多面体の特徴を理解している。また、オイラーの多面体定理を活用して面、頂点、辺の数を求めることができる。 思 ・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。 ・チェバ、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる ・2つの円を動的に捉え、それらの位置関係を考察することができる。 ・平行線と線分の比の性質を b/a や ab の長さをもつ線分の作図に応用する方法を考察することができる。 ・空間における直線や平面の位置関係を考察することができる。 主 ・線分を内分、外分する点や、三角形の角の2等分線と比について調べようとする態度がある。 ・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・チェバの定理やメネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・三角形の相似を利用した方べきの定理の導入に興味・関心をもつ。 ・空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。	考 査
第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 7 記数法 8 座標の考え方 9 ゲーム・パズルの中の数学	さまざまな人間の活動の中から、自然数や整数に関する事象について、数学の内容の理解を深めるとともに考察できるようにする。	知 ・自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解を利用できることを理解している。 ・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ・1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 ・記数法や n 進法について理解し、異なる n 進法の数に変換することができる。 ・地上や空間における特定の地点を、座標で表現できる。 ・ゲームやパズルのルールについて理解している。 思 ・具体的な事象を数学的に捉え、約数の個数の考えを用いて仕組みを考察することができる。 ・身近な事象を数学的に捉え、最大公約数、最小公倍数との関係について考察することができる。 ・割り算の余りによって整数が分類できることを、具体的な事象や問題解決に応用できる。 ・現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を説明することができる。 主 ・数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。 ・コンピュータなどの身近なものに n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。 ・数学史の話題を通じて、数の表し方に興味・関心をもつ。 ・ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。	1 2 3 月 学 年 末 考 査

教科	理科	履修学年	1	教科書 (出版社)	物理基礎 (数研出版)
科目	物理基礎	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	リードα物理基礎 (数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

2 重点的に育成すべき資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
身の回りにある現象に目を向け、そこから法則性を見い出したり、さまざまな現象を物理法則から理解しようとする力を身につけること。 物理学と私たちの暮らしとの関わりについて理解し、現代社会をたくましく生きる力を身につけること。	物理量の定義を正しく理解し、それらの関係性を調べるための実験装置のしくみや操作を習得する。	「知識・技能」を活用して法則性を見出すために必要な思考力・判断力を育成する。さらに意思疎通に必要な表現力を養う。	「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」を身につける過程において、粘り強く学習に取り組もうとする態度を育てる。

3 年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
力と運動	内容： 速度、加速度、運動のグラフ、等加速度直線運動 狙い： 運動を表す物理量の定義と運動のグラフの性質から等加速度直線運動の公式を導く過程を理解させる。	知 ・変位、速度、加速度など運動状態を表す物理量の意味を正しく理解している。 ・運動のグラフ (xt図、vt図) から、変位、速度、加速度などを正しく読み取ることができる。 ・記録タイマーのしくみを理解し、落体の加速度を求めるための一連の操作を行うことができる。	4 ～ 5月 第一学期中間考查
落体の運動	内容： 自由落下、重力加速度、鉛直投げ上げ、鉛直投げ下し 狙い： 自由落下は物体の質量によらないことを確認させる。また、初期状態が定まると任意の時刻の落体の位置と速度が予測できることを示す。	思 ・運動に関する基礎知識をもとに等加速度直線運動の公式を導くことができる。 ・等加速度直線運動の公式を用いて、落体の運動などに関する問題を解くことができる。 ・落体の加速度を測定する実験をとおして、誤差の原因や誤差の範囲について考察を加えたうえで議論することができる。	
		主 ・身近に起こる力学的な現象に対して物理で得た知識や思考力を活用して理解しようとする。 ・授業で学んだ範囲の問題演習を日頃から行っている。	
力とそのはたらき	内容： 力のはたらき、さまざまな力 (重力、張力、垂直抗力、摩擦力、弾性力) 狙い： 力の主なはたらき (変形作用、加速作用) について理解させる。また、物体にはたらく力を正しく判断できるようにする。	知 ・重力、張力、垂直抗力、摩擦力の特徴を理解している。 ・弾性力に関するフックの法則のばね定数の意味を理解している。 ・力のつりあいの条件を理解している。	5 ～ 7月 第一学期期末考查
力のつりあい	内容： 力のつりあい 狙い： 静止している物体にはたらく力を正しく判断し、つりあいの条件を使ってさまざまな力の向きや大きさを求められるようにする。	思 ・身近に起きている現象について、力のはたらきと結び付けて理解し、説明することができる。 ・静止している物体について、つりあいの条件式を立て、物体にはたらくしているさまざまな力の向きや大きさを求めることができる。	
		主 ・身近に起こる力学的な現象に対して物理で得た知識や思考力を活用して理解しようとする。 ・授業で学んだ範囲の問題演習を日頃から行っている。	

運動の法則 摩擦力	内容： 慣性の法則、作用反作用の法則、運動方程式 狙い： さまざまな力をうけて運動する物体について、運動の法則を用いて探究しようとする態度を身につけさせる。 内容： 静止摩擦力、最大摩擦力、静止摩擦係数、動摩擦力、動摩擦係数 狙い： 静止摩擦力と動摩擦力の違いを理解し、摩擦力がはたしている物体の運動を正しく分析することができるようにする。	知	・運動の3法則の意味について、具体的な事例とともに理解している。 ・最大摩擦力と垂直抗力、動摩擦力と垂直抗力の関係をそれぞれ示すことができる。	9 ～ 10月	第二学期中間考査
		思	・運動方程式の意味を説明することができる。 ・さまざまな力を受けながら運動している物体について、運動方程式を用いて正しく分析することができる。		
		主	・身近に起こる力学的な現象に対して物理で得た知識や思考力を活用して理解しようとする。 ・授業で学んだ範囲の問題演習を日頃から行っている。		
気体や液体から受ける力 仕事と力学的エネルギー	内容： 圧力、浮力、空気抵抗 狙い： 圧力の定義を示し、圧力と浮力の関係を正しく理解させる。また、物体の落下速度と空気抵抗の関係を示し、終端速度の意味を理解させる。 内容： 仕事、仕事率、仕事の原理、仕事とエネルギー、運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギー、力学的エネルギー保存則、エネルギー保存則 狙い： 仕事とエネルギーの関係を正しく理解し、エネルギー保存則を利用して物体の運動を分析することができるようにする。	知	・圧力、浮力について、定義を正しく理解している。 ・液体の圧力と深さの関係、アルキメデスの原理について理解している。 ・仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギーの定義を理解している。 ・エネルギー保存則について正しく理解している。	10月 ～ 12月	第二学期期末考査
		思	・空気抵抗と終端速度の関係について説明できる。 ・アルキメデスの原理を、液体の圧力と深さの関係式から導くことができる。 ・仕事とエネルギーの関係をを用いて、エネルギー保存則が導かれることを説明することができる。また、エネルギー保存則を用いて運動を正しく分析することができる。		
		主	・身近に起こる力学的な現象に対して物理で得た知識や思考力を活用して理解しようとする。 ・授業で学んだ範囲の問題演習を日頃から行っている。		
熱とエネルギー 物質と電気抵抗	内容： 熱容量、比熱、熱量保存則、熱平衡、融解熱、蒸発熱、熱と仕事、熱機関、熱効率 狙い： 温度と熱の区別を明確にし、熱量保存則の概念を正しく理解させる。 内容： オームの法則、電力量、電力、ジュール熱 狙い： 電気量、電力、ジュール熱などの概念を仕事やエネルギーと関連付けながら正しく理解させる。	知	・温度と熱の概念の違いを明確に理解している。 ・熱容量、比熱、融解熱、蒸発熱、熱効率の定義を正しく理解している。 ・オームの法則の式を正しく理解している。 ・電力量、電力、ジュール熱の式を正しく理解している。	1月 ～ 3月	学年末考査
		思	・熱量保存則を用いて熱平衡の温度の式を導くことができる。 ・エネルギー保存則に基づき、熱機関のしくみや熱効率について説明することができる。 ・仕事とエネルギーの関係から、電力量とジュール熱の関係について説明することができる。		
		主	・身近に起こる熱や電気に関係する現象に対して物理で得た知識や思考力を活用して理解しようとする。 ・授業で学んだ範囲の問題演習を日頃から行っている。		

教科	理科	履修学年	1	教科書 (出版社)	化学基礎 (数研出版)
科目	化学基礎	必修 または 選択	必修	副教材 など	フォローアップドリル (数研出版)
単位数	2		必修選択 自由選択		セミナー化学基礎+化学 新課程版スクエア最新化学図説 (第一学習社)

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準		時期	
				1	学期
物質の構成 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	物質が純物質と混合物とに分類されることを理解する。混合物から純物質を得る分離・精製する方法を理解し、実験を通してその操作法を体得する。 元素が元素記号で表されることを理解する。物質が単体や化合物に分けられ、さらに単体には性質が異なる同素体があることも理解する。成分元素の検出方法も学ぶ。 物質に固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、それぞれの状態で分子の熱運動のようすが異なっていることを理解する。あわせて、相互の変化には熱の出入りが伴うことを理解する。	知	・ 混合物を分離する操作法をあげることができる。 ・ C、O、P、Sの同素体をあげることができる。また、代表的な成分元素について検出法を理解することができる。 ・ 物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる。	1	学期
		思	・ 純物質と混合物の違いを説明できる。 ・ いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。また、単体と化合物の違いについて説明できる。 ・ 物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化のグラフを理解できる。	中間	考查
		主	・ 身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ。 ・ 元素の概念に興味をもつ。 ・ 日常生活の中の物質の状態変化について興味をもつ。		
物質の構成粒子 1. 原子とその構造 2. イオン 3. 周期表	原子の構造を理解し、同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置と価電子の意味を理解する。 イオンが貴ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式を学ぶ。 原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。 周期律と周期表の特徴を理解する。 価電子の数の周期的変化に注目する。イオン化エネルギーの周期的変化にも留意する。 周期表上での元素の分類について、典型元素と遷移元素の特徴、金属元素と非金属元素の特徴、同族元素の名称と特徴について学ぶ。	知	・ 原子の構成粒子の種類、およびその個数・電荷・質量の関係について理解している。 ・ 単原子イオンの電子配置を示すことができる。 ・ 周期表について周期律を理解する。	1	学期
		思	・ 原子についてどのような粒子から構成されているかを説明することができる。 ・ イオンの電子配置を希ガスの電子配置と関連付けて説明ができる。 ・ イオンとイオン化エネルギーまたは電子親和力と関連付けて説明できる。 ・ 周期表中の周期律を見いだせる。	中間	考查
		主	・ 原子がいくつかの粒子から構成されていることに気づく。 ・ 原子とイオンの違いについて興味をもつ。 ・ 元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性、および同族元素を理解している。		

粒子の結合 1. イオン結合とイオン結晶 2. 共有結合と分子 3. 配位結合 4. 分子間にはたらく力 5. 高分子化合物 6. 共有結合の結晶 7. 金属結合と金属結晶	原子や原子団がイオンになる理論、またイオンがどのような力によって結合するかを学ぶ。イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 価電子を共有するという方法でも結びつくことを理解する。 共有結合からなる物質を表す分子式、電子式や構造式を学ぶ。 配位結合について学び、錯イオンについても理解する。 電気陰性度を理解し、その強さの違いにより電子のかたよりが生じることを学ぶ。その結果、分子の形によって極性分子と無極性分子ができ、溶媒への溶けやすさが異なることを学ぶ。分子間力によって形成される分子結晶の性質と分子結晶からなる代表的な物質について学ぶ。 高分子化合物について学ぶ。 無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。 金属元素の原子どうしがイオン結合や共有結合と異なるしくみで結合することを理解し、具体的に金属が身のまわりでどのように利用されているかも学ぶ。	知	- イオン結晶の名称と組成式を表す方法を理解している。また、イオンからなる物質の特徴を示すことができる。 - 共有結合を理解し、さまざまな分子を電子式と構造式で表すことができる。 - 配位結合が含まれるイオンについて理解している。 - 高分子化合物の成りたちや構造を理解している。 - 共有結合の結晶の構造や粒子間にはたらく力とその性質を理解している。 - 金属が組成式で表せることや金属の性質を理解している。	1	学期
		思	- イオン結晶の性質を説明できる。 - 原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想できる。 - 塩化アンモニウムの結晶にどのような結合があるかを説明できる。 - 付加重合や縮合重合のしくみについて説明できる。 - ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを構造から説明できる。 - 金属特有の性質が自由電子によるものであることに気づき、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。	期末	考查
		主	- 身のまわりにあるイオン結晶の物質に興味をもつ。 - 身のまわりにある分子からなる物質の成りたちについて興味をもつ。 - 通常の共有結合とはしくみの異なる配位結合について興味をもつ。 - 原子がとても長くつながった分子である高分子化合物に興味をもつ。 - 共有結合の結晶にどのような物質があるかに興味をもつ。 - 金属特有の性質に興味をもつ。		
物質質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と物質質量	異なる元素の原子どうしの質量が比較でき、それにより分子量や式量の定義を学ぶ。 ある一定の量を一つの単位として扱う、物質質量の概念を学ぶ。 物質質量の数値的な扱い方を体得する。気体は物質質量と体積も関係があることを理解する。 質量パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 固体の溶解度の表し方と溶解度曲線について理解し、溶解量や再結晶における析出量の計算方法を身につける。 化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。 また、化学の基礎法則について、原子説の発見までの法則と分子説発見までの法則という流れから理解する。	知	- 原子量・分子量・式量の定義を理解している。 - 物質質量の定義を理解している。 - 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 - 化学反応における、物質質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。	2	学期
		思	- 同位体の天然存在比から原子量を導くことができる。 - アボガドロ定数・モル質量・モル体積を用いて、物質質量の計算ができる。 - 質量パーセント濃度とモル濃度の計算ができる。また、濃度の変換ができる。 - 化学反応式を表すことができる。また、化学反応式の係数から量的関係を計算して求めることができる。	中間	考查
		主	- 同じ原子でも異なる質量があることに興味をもつ。 - 物質質量の概念について興味をもつ。 - 濃度の表し方について興味をもつ。 - 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。		

酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩 4. 中和滴定	酸や塩基について、2つの定義を学び、酸・塩基の反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 水の一部が電離していることや、水溶液の酸性や塩基性の強さをpHで表せることを理解する。	知	- 酸・塩基の定義を理解している。また、価数や電離度などの考え方があることを理解している。 - pHの表す方法を理解している。 - 中和反応を化学反応式で表すことができる。また、塩の分類について理解している。 - 未知の酸や塩基の濃度を中和滴定により測定することができる。また、中和滴定で使用する器具を正しく扱うことができる。	2	学期
	酸と塩基が中和するときに塩と水が生成することを学ぶ。また、塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質及び弱酸・弱塩基の遊離、揮発性の酸の遊離について理解する。 中和反応における量的関係、および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また、滴定操作により酸や塩基の濃度を求められることを実験を通して理解し、計算方法も体得する。さらに、滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	思	- アレニウスの定義とブレンステッドローリーの定義から酸と塩基を見きわめられる。 - 水のイオン積の関係からpHを求めることができる。 - 塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。 - 中和の量的関係を数式で表すことができる。また、滴定曲線におけるpHの変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。	期末	考查
		主	- 酸とは何か、塩基とは何かに興味をもつ。 - 水も一部が電離していることに興味をもつ。 - 中和反応が本質的にH^+とOH^-の反応であることに気づく。 - 酸・塩基の価数が中和の量的関係において重要であることに気づく。		
酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用	酸素や水素の授受による酸化還元反応を学び、電子の授受による酸化・還元を定義を理解する。 酸化数の考え方を学び、その変化から酸化還元反応の区別ができるようになる。 酸化剤や還元剤のはたらきと、化学変化を化学反応式で表せるようになる。酸化還元反応の量的関係も理解する。	知	- 酸化還元の本質が電子の授受であることを理解している。また、酸化数を求められる。 - 酸化剤と還元剤の半反応式から化学反応式を表すことができる。 - 様々な金属と水の反応、および酸との反応について理解している。 - 金属の製錬の方法について理解している。	3	学期
	金属がイオンになる反応が酸化還元反応であることと、金属のイオン化傾向が金属の種類によって異なることを理解する。金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が密接に関係していることを学ぶ。 電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。 金属を鉱石から得る製錬の手法についても理解する。	思	- 酸化数によって酸化還元反応を区別することができる。 - 酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。 - 金属のイオン化列をもとに金属の反応性を説明できる。 - 金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。	学年末	考查
		主	- 酸素の授受以外にも酸化還元反応の定義があることに興味をもつ。 - 複雑な化学反応も酸化剤と還元剤の半反応式からつくれることに興味をもつ。 - 金属の反応性について興味をもつ。		
化学が拓く世界 1. 食品保存の化学 2. 化粧品化学 3. 浄水場の化学	化学基礎で学んだ物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場といったさまざまな場面の技術と結びついていることを学習することによって、化学基礎で学んだことの理解をさらに深める。	知	化学基礎で学習した内容と環境問題との結びつきについて理解している。	3	学期
		思	私たちの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて説明できる。	学年末	考查
		主	食品保存や浄水場、化粧品などの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて興味をもつ。		

教科	理科	履修学年	1	教科書 (出版社)	生物基礎 (実教出版)
科目	生物基礎	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	スクエア最新図説生物 セミナー生物基礎
単位数	2				

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身につける。	生物や生物現象に関する資料の分析や観察、実験などを通じて、根拠に基づいて思考する力や科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1 多様性・共通性と その由来 2 細胞 2節 生物とエネルギー 1 生命活動と エネルギーの獲得 2 酵素と代謝 3 光合成と呼吸	さまざまな生物の比較を通じて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。生物の共通性が生物の起源を共有することを関連付けて理解する。 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。	知 生物の共通性を理解している 真核細胞と原核細胞の共通点を理解している 動物細胞・植物細胞・原核細胞の違いを理解している 酵素の働きを理解している 光合成の過程の概要を理解している 呼吸の過程の概要を理解している 呼吸や光合成とATPの関係を理解している 顕微鏡を正しく使用できる 思 細胞の観察を通じて、細胞の共通点を見出せる 生物が共通性をもつ由来を説明できる 生命活動にエネルギーが必要な理由を説明できる 資料や実験から酵素の性質を見出すことができる 光合成や呼吸におけるATPの役割を説明できる 主 実験や観察を主体的に進めようとしている 生物が共通性をもつ理由を考えようとしている 生命活動とエネルギーの関係を考察しようとする 授業内容や思考内容を記録し整理する	1 学期 中間・ 期末 考查
2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 1 遺伝子の本体 2 DNAの構造 3 DNAの複製と分配 2節 遺伝情報とタンパク質の合成 1 遺伝子とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現 4 ゲノムと遺伝子	DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解する。 塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を理解する。 遺伝子とゲノムの関係を理解する。	知 DNAの構造の特徴を理解している DNAの複製のしくみを理解している DNAの分配の過程を理解している タンパク質と形質との関係を理解している 遺伝子とタンパク質の関係を理解している タンパク質が合成される過程を理解している ゲノムと遺伝子の関係を理解している 思 DNA模型を製作しその特徴を説明できる DNA複製を塩基の相補性に基づいて説明できる 資料から塩基とアミノ酸の関係を推論できる 遺伝子の発現と細胞の分化の関係を説明できる 主 実験や観察を主体的に進めようとしている 資料に基づきDNA複製のしくみを推論しようとする 塩基配列とアミノ酸配列の関係を推論しようとする 授業内容や思考内容を記録し整理する	1 学期 期末 考查 2 学期 中間 考查

3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 1 体内環境と恒常性 2 体液とその働き 3 体液の調節 2節 体内環境の維持のしくみ 1 情報の伝達 2 自律神経系による情報伝達と調節 3 内分泌系による情報伝達と調節 4 内分泌系と自律神経系による調節 3節 免疫 1 生体防御と免疫 2 自然免疫のしくみ 3 獲得免疫のしくみ 4 免疫と疾患	体内環境やその調節に関わる実験や資料に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。 体内環境の維持のしくみに関する資料に基づいて、体内環境の維持と自律神経系との関係を理解する。同様に体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解する。 とくに血糖量調節を主題に取り上げ、内分泌系と自律神経系との協調について理解する。 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。身近な疾患を例として、免疫と医療との関連を理解する。	知 思 主	体液の構成とその働きについて理解している 心臓の構造と働きを理解している 血液凝固のしくみを理解している 肝臓と腎臓の構造と働きを理解している 自律神経系の働きを理解している 内分泌系とホルモンの働きを理解している 血糖量調節のしくみについて理解している 自然免疫とそれにかかわる血球を理解している 獲得免疫とそれにかかわる血球を理解している アレルギーや予防接種について理解している 資料に基づき体内環境の恒常性を見出す グラフからヘモグロビンの働きを説明できる 実験や資料から体内環境維持のしくみを考察できる 資料に基づいて糖尿病がおきるしくみを考察できる 資料に基づいて白血球の役割について説明できる 自然免疫と獲得免疫の関係について説明できる ワクチンの働きと予防接種の重要性を説明できる 恒常性が保たれるしくみを考察しようとしている 免疫の働きについて考察しようとしている 実験や観察を主体的に進めようとしている 授業内容や思考内容を記録し整理する	2学期	中間・期末 考查
4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1 生態系とその成立 2 植生とその変化 3 遷移のしくみ 2節 植生とバイオーム 1 世界のバイオームとその分布 2 日本のバイオームとその分布 3節 生態系と生物の多様性 1 生物の多様性 2 生物同士のつながり 4節 生態系のバランスと保全 1 生態系のバランス 2 人間生活による環境への影響 3 生物多様性への影響と生態系の保全	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移が光環境の変化や土壌の発達と関連しておきることを理解する。また、遷移の結果として成立する植生は、環境によって異なることを理解する。 世界や日本には多様なバイオームが成立していることを理解する。また、それらのバイオームは、各地の気温や降水量と関連していることを理解する。 生態系を構成する種同士の関係性を理解し、それと関連して、生態系における種多様性について理解する。 生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。それとともに、生態系の保全の重要性を認識する。	知 思 主	生態系を構成する要素を理解している。 植生の多様性について理解している。 植生の遷移とそのしくみを理解している 陽生植物と陰生植物の違いを理解している 世界のバイオームについて理解している バイオームの水平分布と垂直分布を理解している 生態系内の生物同士の関係を理解している 人間活動の環境への影響を理解している 生物多様性を維持することの重要性を理解している 資料に基づいて遷移と環境変化の関係を説明できる 光条件や土壌と植生の関係を考察できる バイオームと気温や降水量との関係を考察できる 日本のバイオームの分布と環境の関係を説明できる 生態系における種多様性の重要性を説明できる 生態系のバランスが保たれるしくみを考察できる 生態系を保全するために何が重要かを説明できる バイオームと環境要因との関係を考察しようとする。 人間活動の生態系への影響を考察しようとする 生態系の保全のために自分ができることについて、自ら考え行動しようとする。 実験や観察を主体的に進めようとしている 授業内容や思考内容を記録し整理する	3学期	学年末 考查

教科	保健体育	履修学年	1	教科書 (出版社)	新高等保健体育（大修館）
科目	体育	必修 または 選択	必修	副教材 など	
単位数	3		必修選択 自由選択		

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にしようとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準		時期 考查	
				1 ・ 2 ・ 3	学期
柔道	(1) 攻防に必要な補助運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。 (2) 授業で定められた基本動作・受け身・投げ技・固め技ができること。 (3) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。 (4) 武道の学習に自主的に取り組もうとすること。	知	・ 攻防に必要な補助運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることについて、言ったり書き出したりしている。		
		思	・ 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。		
		主	・ 武道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。		
ダンス	(1) 課題に対して、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができるようにする。 ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができるようにする。 イ フォークダンスでは、伝統的な音楽を通して、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ることができるようになる。 ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 (2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとして、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	知	・ それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、全身を使って動きに変化を付けて踊ることができる。	1 ・ 2 ・ 3	学期
		思	・ それぞれのダンスに応じて、表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。 ・ ダンスの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 ・ 選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		
		主	・ 学習に自主的に取り組もうとしている。 ・ 仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・ 作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。 ・ 一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。		
卓球	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称ややり方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。	知	・ 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ タイミングを合わせてボールを捉えることができる。	1 ・ 2	学期

	(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・ねらった方向にボールを打ち返すことができる。	・3	
		思 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。		
		主 ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。		
体づくり運動	(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。 イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 (2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	知 ・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・運動を安全に行うには、関節への負荷が過剰にならないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことについて、言ったり書き出したりしている。	1	学期
		思 ・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。		
		主 ・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・健康・安全を確保している。 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。		
体育理論	(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。	知 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解する	2・3	学期
		思 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。		
		主 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組む。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む。		
バスケットボール	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	知 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。	1	学期
		思 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。		
		主 ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。		
水泳	(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運	知 ・水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて、学習した具体	1・	学期

	動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。 ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。 エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。 オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができるようにする。 (2) 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	例を挙げている。 ・泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調節して呼吸動作を行うことができる。 ・肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。 ・ブルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して呼吸を行い、キックの蹴り終わりに合わせてグライドをとり、1回の腕の動き（ストローク）で大きく進むことができる。 ・水面上の腕は肘を伸ばし、肩を支点にして肩の延長線上に小指側からまっすぐ入水することができる。 ・腕を前方に伸ばし、手のひらが胸の前を通るようなキーホール（ロングアームブル）で進むことができる。 ・クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって力強く壁を蹴り、各泳法に適した水中における一連の動きから、泳ぎだすことができる。 ・背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に頭を水中に沈めながら力強く壁を蹴り、水中で抵抗の少ない仰向けの姿勢にする一連の動きから、泳ぎだすことができる。	2	
		思 ・選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・選択した泳法に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法やその修正の仕方を見付けている。 ・水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。		
		主 ・水泳の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ・水泳の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。		
バドミントン	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。	知 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ボールを相手側のコートやコート外に打ち返すことができる。	2	学期
		思 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。		
		主 ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。		
ソフトボール	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防を	知 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投	2	学期

	することができるようにする。 (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		げることができる。		
		思	・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。		
		主	・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。		
陸上競技（短距離走・ハードル走・円盤投）	(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。 ア 短距離走では、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができるようにする。 イ 円盤投では、円盤に効率よく力を加えられるフォームで力強く投げることができるようにする。 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	知	・陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・（短距離走）スタートダッシュでは地面を力強くキックして、徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ・（短距離走）後半でスピードが著しく低下しないよう、力みのないリズムカルな動きで走ることができる。 ・（ハードル走）スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。 ・（ハードル走）遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことができる。 ・（円盤投）円盤に効率よく力を加えられるフォームで力強く投げることができる。 ・（円盤投）25～35 度程度の角度で円盤を投げることができる。	1	学期
		思	・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		
		主	・陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。		
陸上競技（長距離走）	(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。 ア 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	知	・陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることができる。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	2・3	学期
		思	・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		
		主	・陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。		

教科	保健体育	履修学年	1	教科書 (出版社)	新高等保健体育（大修館）
科目	保健	必修 または 選択	必修	副教材 など	
単位数	1		必修選択 自由選択		

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	学習内容について、理解したことを言ったり書いたりしている。	学習内容に関する課題を発見し、解決方法などを話し合い、筋道を立てて説明している。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
- 日本における健康課題の変遷 - 健康の考え方と成り立ち - ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり - 健康に関する意思決定・行動選択 - 現代における感染症の問題 - 感染症の予防 - 性感染症・エイズとその予防	「現代社会と健康」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。 (7) 健康の考え方 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。 (1) 現代の感染症とその予防 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。	・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行の速いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。	1

学
期
・
考
査

		思	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
		主	・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		
・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・がんの予防と回復 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患への対応	「現代社会と健康」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 (オ) 精神疾患の予防と回復 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。	知	・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・コカイン、MDMA などの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物学的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対応により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については休むなどの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
		思	・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。		

			・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・精神疾患の予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
		主	・生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		
・事故の現状と発生要因 ・交通事故防止の取り組み ・安全な社会の形成 ・応急手当の意義と救急医療体制	「安全な社会生活」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。 (f) 安全な社会づくり 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。 また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じること。 (i) 応急手当 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。	知	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。 ・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。		
		思	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
		主	・安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		

教科	外国語	履修学年	1	教科書 (出版社)	LANDMARK English Communication I
科目	英語コミュニケーション I	必修 または 選択	必修 必修選択 自由選択	副教材 など	LANDMARK English Communication I サブノート
単位数	4				

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
	外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考査	
Preparatory Lesson1～3	・クラスメイトの自己紹介を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 ・自己紹介を通して、自分についての情報や考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・自己紹介を通して、自分についての情報や考えを話して伝えることができるようにする。	知	1	学期
		思	中間	考査
		主		
Lesson 1 Enjoy Your Journey!	・高校生活における目標についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取り理解することができるようにする。 ・高校生活における目標についての文章を通して不定詞、動名詞の意味や構造を理解する。また文章の要点を捉えることができるようにする。 ・高校生活における目標についての英文を読み、読んだことを基に自分の目標について伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・コンクールの申込書の英文を読み、読んだことを基にしながら自分が挑戦したいことについて話して伝えることができるようにする ・自分の高校生活における目標について、自分の考えを書いて伝えることができる。	知	1	学期
		思	中間	考査
		主		
Lesson 2 Curry Travels around the World	・カレーについての説明や会話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉えることができるようにする。 ・カレーについての文章を通して分詞の後置修飾、現在完了形の意味や構造を理解する。またカレーの歴史や発展についてなど、文章の要点を捉えることができるようにする。 ・カレー料理の好みについて、自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・自分のカレー料理の好みについて、話して伝えたり書いたりすることができるようにする。	知	1	学期
		思	中間	考査
		主		

Lesson 3 School Uniforms	- 学校の制服についての会話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉えることができるようにする。 - 学校の制服についての文章を通して受動態の意味や構造を理解する。また制服についてのさまざまな意見の要点を把握することができるようにする。 - 学校の制服着用について賛成か反対か、自分の意見を伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 - 自分の学校を紹介するために学期や学校行事等の情報について、書いて伝えることができるようにする。	知	学校の制服についての文章を通して受動態の意味や構造を身につけている。また制服についてのさまざまな意見の要点を把握することができる。	1	学期
		思	- 学校の制服着用について賛成か反対か、自分の意見を伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 - 自分の学校を紹介するために学期や学校行事等の情報について、書いて伝えることができるようにする。	期末	考查
		主	- 学校の制服着用について賛成か反対か、自分の意見を伝えあうやり取りを続けようとしている - 自分の学校を紹介するために学期や学校行事等の情報について、書こうとしている。		
Tips for Speaking 1, 2	- 語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、話し手の意図を把握することができるようにする。 - 語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 - 語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えることができるようにする。	知	語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を身につけている。また、話し手の意図を把握することができる。	1	学期
		思	語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えることができるようにする。	期末	考查
		主	語や句、文における強勢などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えようとしている。		
Reading Encyclopedia Brown	- エンサイクロペディアブラウンの物語の文章を読み、物語の流れやその概要を把握することができるようにする。 - エンサイクロペディアブラウンを読んだ内容を基に、物語の感想について自分の考えや気持ちを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。	知	エンサイクロペディアブラウンの物語の文章を読み、物語の流れやその概要を把握するための基本的な知識を身につけている。	1	学期
		思	エンサイクロペディアブラウンの物語の文章を読み、物語の流れやその概要を把握することができるようにする。	期末	考查
		主	エンサイクロペディアブラウンを読んだ内容を基に、物語の感想について自分の考えや気持ちを伝えあうやり取りを続けようとしている。		
Lesson4 Eco -Tour on Yakushima	- 世界遺産についての会話を聞き必要な情報を聞き取り、要点を捉えることができるようにする。 - 屋久島についての文章を通して受動態や関係副詞の意味や構造を理解する。また屋久島のエコツアーや環境保全について、要点を把握することができるようにする。 - 自分が訪ねてみたい世界遺産について、自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 - リーフレットから必要な情報を理解して、自分が参加したいエコツアーについて話して伝えることができるようにする。 - 外国人観光客におすすめの日本の世界遺産を紹介するために必要な情報を、書いて伝えることができるようにする。	知	屋久島についての文章を通して受動態や関係副詞の意味や構造を身につけている。また屋久島のエコツアーや環境保全について、要点を把握することができる。	1	学期
		思	- 自分が訪ねてみたい世界遺産について、自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 - リーフレットから必要な情報を理解して、自分が参加したいエコツアーについて話して伝えることができるようにする。	期末	考查
		主	- 自分が訪ねてみたい世界遺産について、自分の考えを伝えあうやり取りを続けようとしている。 - リーフレットから必要な情報を理解して、自分が参加したいエコツアーについて話して伝え、書こうとしている。		
Lesson5 Bailey the Facility Dog	- 身近な動物についての会話から必要な情報を聞き取り、話の要点を捉えることができるようにする。 - ファシリティドッグについての文章を通して	知	ファシリティドッグについての文章を通して過去完了形、不定詞と原形不定詞、不定詞の意味上の主語の意味や構造を身につけている。またファシリティドッグについて必要な情報を読み取り、要点を把握できる。	2	学期

	過去完了形，不定詞と原形不定詞，不定詞の意味上の主語の意味や構造を理解する。またファシリティドッグについて必要な情報を読み取り，要点を把握できるようにする。 ・ペットを飼うことについて，自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・高校生活で行うべき重要なことについて，自分の考えや気持ちなどを話して伝えることができるようにする。 ・自分が住む街の病院にファシリティドッグ導入の提案するために，導入の利点や自分の考えを書いて伝えることができるようにする。	思 主	・高校生活で行うべき重要なことについて，自分の考えや気持ちなどを話して伝えることができるようにする。 ・自分が住む街の病院にファシリティドッグ導入の提案するために，導入の利点や自分の考えを書いて伝えることができる。 ・高校生活で行うべき重要なことについて，自分の考えや気持ちなどを話して伝えようとしている。 ・自分が住む街の病院にファシリティドッグ導入の提案をするために，導入の利点や自分の考えを書こうとしている。	中間	考查
Lesson6 Communication without Words	・ノンバーバルコミュニケーションについての会話から必要な情報を聞き取り，要点を把握できるようにする。 ・ノンバーバルコミュニケーションについての文書を通して対比や難易，繰り返しを避ける表現や，分詞構文の意味や構造を理解する。またノンバーバルコミュニケーションについて必要な情報を読み取り，概要を把握することができる。 ・日常で使用するジェスチャーについて，自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・海外の学校との違いについて，比較しながら情報や自分の考えを話して伝えることができるようにする。 ・色が人に与える影響についての情報を読んだ後に，その情報を活用しながら，Tシャツに使用する色についての提案を書いて伝えることができる。	知 思 主	・ノンバーバルコミュニケーションについての文書を通して対比や難易，繰り返しを避ける表現や，分詞構文の意味や構造を身につけている。またノンバーバルコミュニケーションについて必要な情報を読み取り，概要を把握することができる。 ・日常で使用するジェスチャーについて，自分の考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・海外の学校との違いについて，比較しながら情報や自分の考えを話して伝えることができるようにする。 ・日常で使用するジェスチャーについて，自分の考えを伝えあうやり取りを続けようとしている。 ・海外の学校との違いについて，比較しながら情報や自分の考えを話して伝え、書こうとしている。	2	学期
Lesson7 Dear World: Bana's War	・情報の入手方法についての会話から必要な情報を聞き取り，それぞれの話し手の考えを把握することができるようにする。 ・バナの平和への思いや，SNSを用いた活動についての文章を通して，関係代名詞の非限定用法，関係副詞の非限定用法の意味や構造を理解する。また文章を読み，バナの話について概要を捉えることができる。 ・情報の入手手段としてインターネットを使うことについて賛成か反対か，自分の意見を伝えあうやり取りを続けることができる。 ・バナを励ますためにどのようなメッセージを送るか，自分の考えや気持ちを話して伝えることができる。 ・社会問題を解決するためにどのようにソーシャルメディアを活用するか，自分の考えを書いて伝えることができる。	知 思 主	・バナの平和への思いや，SNSを用いた活動についての文章を通して，関係代名詞の非限定用法，関係副詞の非限定用法の意味や構造を身につけている。また文章を読み，バナの話について概要を捉えることができる。 ・バナを励ますためにどのようなメッセージを送るか，自分の考えや気持ちを話して伝えることができる。 ・社会問題を解決するためにどのようにソーシャルメディアを活用するか，自分の考えを書いて伝えることができる。 ・バナを励ますためにどのようなメッセージを送るか，自分の考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・社会問題を解決するためにどのようにソーシャルメディアを活用するか，自分の考えを書いて伝えようとしている。	2	学期
Tips for Speaking 3 Tips for Listening 1	・イントネーションや語と語の音の繋がりなどの英語の特長やきまりに関する事項を理解し，話し手の意図を把握することができるようにする。 ・イントネーションや語と語の音の繋がりなどの英語の特長やきまりに関する事項を理解し，情報や考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・イントネーションや語と語の音の繋がりなど	知 思 主	・イントネーションや語と語の音の繋がりなどの英語の特長やきまりに関する事項を理解し，話し手の意図を把握することができる。 ・イントネーションや語と語の音の繋がりなどの英語の特長やきまりに関する事項を理解し，情報や考えを伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・イントネーションや語と語の音の繋がりなどの英語の特長やきまりに関する事項を理解し，情報や考えを伝えあうやり取りを続けようとしている。	2	学期
				期末	考查

	の英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えることができるようにする。				
Reading2 Enjoy Food with Your Five Senses!	・食べ物と人間がもつ五感の関係についての文章から必要な情報を読み取り、文章の要点を捉えることができるようにする。	知	・食べ物と人間がもつ五感の関係についての文章から必要な情報を読み取り、文章の要点を捉える基本的な知識を身につけている。	2	学期
	・食べ物と人間がもつ五感の関係についての文章を読んだ内容を基に、この文章について自分の考えや気持ちを伝えあうやりとりを続けることができるようにする。	思	・食べ物と人間がもつ五感の関係についての文章を読んだ内容を基に、この文章について自分の考えや気持ちを伝えあうやりとりを続けることができるようにする。	期末	考查
	・最近食べて美味しかった食べ物について、情報や話して伝えることができるようにする。	主	・食べ物と人間がもつ五感の関係についての文章を読んだ内容を基に、この文章について自分の考えや気持ちを伝えあうやりとりを続けようとしている。		
Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere	・将来の職業選択についての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。	知	・職業選択や社会起業家についての文章を読み、部分否定や知覚動詞を使用した表現、目的を表す表現の意味と構造を身につけている。また文章を読み、社会起業家について情報を読み取り、要点を把握できる。	2	学期
	・職業選択や社会起業家についての文章を読み、部分否定や知覚動詞を使用した表現、目的を表す表現の意味と構造を理解する。また文章を読み、社会起業家について情報を読み取り、要点を把握する。	思	・将来どのような社会問題を解決したいか、また自分のキャリアプランについて、自分の考えや気持ちを話して伝え、書くことができるようにする。	期末	考查
	・将来どのような社会問題を解決したいか、また自分のキャリアプランについて、自分の考えを相手に伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 ・自分のキャリアプランについて、自分の考えや気持ちを話して伝えることができるようにする。 ・自分のキャリアプランについて、自分の考えや気持ちを書いて伝えることができる。	主	・将来どのような社会問題を解決したいか、また自分のキャリアプランについて、自分の考えや気持ちを話して伝え、書こうとしている。		
Lesson9 Space Elevator	・宇宙エレベーターで宇宙に行けるとしたらしたいことについて話している会話から必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。	知	・宇宙エレベーターについての文章を読み、仮定法過去や倍数表現の意味や構造を身につけている。また必要な情報を読み取り、概要を把握することができる。	3	学期
	・宇宙エレベーターについての文章を読み、仮定法過去や倍数表現の意味や構造を理解する。また必要な情報を読み取り、概要を把握することができる。	思	・宇宙について自分の関心のある事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うやり取りを続けることができるようにする。また自分の考えを書いて伝えることができるようにする。	学年末	考查
	・宇宙について自分の関心のある事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 ・宇宙エレベーターで宇宙に行けるとしたら宇宙でどんなことをしたいか、自分の考えを話して伝えることができるようにする。 ・JAXA宛てにこれから取り組んで欲しい宇宙探査についての手紙を書いて、自分の考えを書いて伝えることができるようにする。	主	・宇宙について自分の関心のある事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うやり取りを続けようとしている。また自分の考えを書いて伝えようとしている。		
Tips for Listening 2, 3	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、話し手の意図を把握することができるようにする。	知	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を身につけている。また情報や考えを伝え合うやりとりを続けることができる。	3	学期
	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを伝え合うやりとりを続けることができるようにする。	思	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えることができるようにする。	学年末	考查
	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えることができるようにする。	主	・音の脱落、同化などの英語の特長やきまりに関する事項を理解し、情報や考えを話して伝えようとしている。		
Lesson10 Friendship over Time	・高校にやってくる留学生についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができるようにする。	知	・日本とトルコの友好関係についての文章を読み、仮定法過去完了の意味や構造を身につけている。また必要な情報を読み取り、話の概要を捉えることができる。	3	学期

	・日本とトルコの友好関係についての文章を読み、仮定法過去完了の意味や構造を理解する。また必要な情報を読み取り、話の概要を捉えることができるようにする。 ・外国に住む友人との交流について、自分の考えを伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 ・自分が住んでいる街を海外の姉妹都市に住んでいる人たちに紹介するためのイベントを企画し、そのイベントについての情報を話して伝えることができる。 ・当時の大島の住人になったと仮定して、自分だったらエルトゥールル号の乗組員のためにどのようなことをしたか、自分の考えを書いて伝えることができる。				
	思 主	・自分が住んでいる街を海外の姉妹都市に住んでいる人たちに紹介するためのイベントを企画し、そのイベントについての情報を話して伝えることができる。 ・当時の大島の住人になったと仮定して、自分だったらエルトゥールル号の乗組員のためにどのようなことをしたか、自分の考えを書いて伝えることができる。 ・自分が住んでいる街を海外の姉妹都市に住んでいる人たちに紹介するためのイベントを企画し、そのイベントについての情報を話して伝えようとしている。 ・当時の紀州大島の住人になったと仮定して、自分だったらエルトゥールル号の乗組員のためにどのようなことをしたか、自分の考えを書こうとしている。		学 年 末	考 査

教科	英語	履修学年	1 学年	教科書 (出版社)	Genius English Logic and Expression I
科目	論理・表現 I	必修 または 選択	必修	副教材 など	ジーニアス総合英語 ジーニアス総合英語 English Grammar in 27 Lessons
単位数	2		必修選択 自由選択		

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
1. コミュニケーションを支えるものとしての文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面で適切な文法形式を用いて正しく表現することができる。 2. 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら話して伝え合うことができる。 3. 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら話して伝えることができる。 4. 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら1パラグラフの文章にまとめて書いて伝えることができる。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項、対話の展開のしかたや論理構成について理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、多くの支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う、また、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理構成や展開を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して話して伝えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して話して伝えようとしている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話して伝えようとしている。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・学習の狙い	評価規準	時期 考查
英文法の基礎知識	[言語材料] 品詞、名詞と動詞、英語の文型、句と節、疑問文・否定文の作り方 [言語活動] 英語の文の基本的な形式を用い、自分の例に置き換えて文を完成させる、または、例にならってやり取りする。	知 英語の文の基本的な形式（品詞、名詞と動詞、英語の文型、句と節の概念および疑問文・否定文の作り方）について理解し、またそれを用いて話したり、話して伝え合ったりする技能を身につけている。 思 英語の基本的な形式を用いて、自分について話したり、互いのことを尋ね合ったりしている。 主 英語の基本的な形式を用いて、自分について話したり、互いのことを尋ね合ったりしようとしている。	1 学期 中間 考查
Unit 1 Introducing Yourself	[言語材料] SV, SVC, SV0, there 構文 [言語活動] 1. パーティー会場で初対面の挨拶をしている人々の写真を描写。 2. 自己紹介の文章を読む、聞く。 3. 余暇活動についてペアで1分間やり取りする。 4. 新しい級友に自己紹介をする。	知 SV, SVC, SV0の文型、およびthere構文の特徴やきまりについて理解し、またそれを用いて、自分自身について、論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。 思 SV, SVC, SV0の文型、およびthere構文を用い、名前に加えていくつかのポイントを含む情報を整理して自己紹介のスピーチを行っている。 主 新しいクラスメートに向けて、SV, SVC, SV0の文型、およびthere構文を用い、名前に加えていくつかのポイントを含む情報を整理して自己紹介のスピーチを行おうとしている。	
Unit 2 Talking about a Family Member or Friend	[言語材料] SV00, SV0C [言語活動] 1. 家族写真の描写。 2. 家族紹介の文章を読む、聞く。 3. 最高の贈り物について、ペアで1分間やり取りする。 4. 友人紹介の文章を読む、聞く。 5. 家族や友人についての紹介を書く。	知 SV00, SV0Cの文型の特徴やきまりについて理解し、またそれを用いて、身近な人物について、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思 家族あるいは友人について、SV00やSV0Cの文型を用い、その人の基本的な情報、エピソード、自分がその人から受けた影響などの情報を整理して、5文以上のまとまりのある紹介文を書いている。	
		主 家族あるいは友人について、SV00やSV0Cの文型を用い、その人の基本的な情報、エピソード、自分がその人から受けた影響などの情報を整理して、5文以上のまとまりのある紹介文を書こうとしている。	

Unit 3 Talking about Your School	[言語材料] 現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形 [言語活動] 1. 学校生活の写真描写。 2. 日本の学校生活を紹介している文章を読む, 聞く。 3. ランチタイムの過ごし方について, ペアで1分間やり取りする。 4. 学校生活を紹介する動画のナレーション原稿を書く。	知	現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形の特徴やきまりについて理解し, それを用いて, 自分たちの学校生活について, 論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。
		思	海外の生徒に対して, 自分たちの学校生活について, 現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形を用いて, 時間や場所などの基本情報に加え, 生徒がしていることの描写を交えて, 5文以上のナレーション原稿を書いている。
		主	海外の生徒に対して, 自分たちの学校生活について, 現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形を用いて, 時間や場所などの基本情報に加え, 生徒がしていることの描写を交えて, 5文以上のナレーション原稿を書こうとしている。
Unit 4 Making Plans for The Weekend	[言語材料] 未来を表す表現 [言語活動] 1. キャンプの写真の描写。 2. 週末の計画について話している文章を読む, 聞く。 3. 週末の予定について, ペアで1分間やり取りする。 4. 週末のハイキングの計画についてディスカッションを行う。	知	未来を表す表現の特徴やきまりについて理解し, それを用いて, 週末の計画について, 対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。
		思	週末のハイキングの計画について, 未来を表す表現を用い, 自分の考えとその理由を述べながらディスカッションを行っている。
		主	週末のハイキングの計画について, 未来を表す表現を用い, 自分の考えとその理由を述べながらディスカッションを行おうとしている。
Unit 5 Sharing Experiences	[言語材料] 現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形 [言語活動] 1. 観光客が日本文化を体験している写真描写。 2. 習い事の経験について話している文章を読む, 聞く。 3. 習い事の経験について, ペアで1分間やり取りする。 4. 自分の大切にしている物について話している文章を読む, 聞く。 5. 自分の大切にしている物を紹介する。	知	現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形の特徴やきまりについて理解し, それを用いて, 自分の大切にしている物について, 論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。
		思	自分の大切にしている物について, 現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形を用い, 具体的なエピソードや思い出を交えて, 1分間のShow & Tellを行っている。
		主	自分の大切にしている物について, 現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形を用い, 具体的なエピソードや思い出を交えて, 1分間のShow & Tellを行おうとしている。
Project 1 Making a Self-Promotion Video Clip	[言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. Unit 1～Unit 5で話したり書いたりした内容を振り返り自己紹介の内容を決める。 2. ペアになり, 互いの自己紹介を聞いて, 質問やコメントをやり取りする。 3. 2の質問やコメントを反映させて自己紹介を書く。 4. 新しいペアで互いに自己紹介を行い, コメントやアドバイスを交換して, 3. で書いた原稿を修正する。 5. グループで自己紹介の動画を撮影する。 6. 活動の振り返りを行う。	知	自分自身について, Unit 1～5で行った言語活動を活用し, ペア活動を通じて内容をブラッシュアップしながら, 興味をもってもらえそうなポイントを盛り込み, 話し方を工夫して伝える技能を身につけている。
		思	海外の高校生に伝えるために, Unit 1～5で行った言語活動を活用し, ペア活動を通じて内容をブラッシュアップしながら, 興味をもってもらえそうなポイントを盛り込み, 話し方を工夫して, 1分間の自己紹介を行っている。
		主	海外の高校生に伝えるために, Unit 1～5で行った言語活動を活用し, ペア活動を通じて内容をブラッシュアップしながら, 興味をもってもらえそうなポイントを盛り込み, 話し方を工夫して, 1分間の自己紹介を行おうとしている。
Unit 6 Learning Your Way around at School	[言語材料] 助動詞 [言語活動] 1. 学校の図書室の生徒たちの写真描写。 2. 学校のルールについてやり取りしている文章を読む, 聞く。 3. 自分たちの学校のルールについて, ペアで1分間やり取りする。 4. 図書室の利用法について説明している文章を読む, 聞く。 5. 学校のルールブックを書く。	知	助動詞の特徴やきまりについて理解し, それを用いて, 学校のルールについて, 論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。
		思	海外の生徒に向けて, 学校のルールについて, 助動詞を用い, してよいこと, してはいけないことなどの情報を整理して, 6文以上で書いている。
		主	海外の生徒に向けて, 学校のルールについて, 助動詞を用い, してよいこと, してはいけないことなどの情報を整理して, 6文以上で書こうとしている。

Unit 7 Looking Back	[言語材料] 助動詞 [言語活動] 1. 生徒たちの部活動の写真描写。 2. 中学時代の活動についてやり取りしている文章を読む、聞く。 3. 自分の通った中学校と高校の違いについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 自分の経験をもとに後輩の中学生にアドバイスしている文章を読む、または聞く。 5. 中学時代にすべきだったこと、すべきでなかったことについて、プレゼンテーションを行う。	知	助動詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、過去を振り返り、論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	
		思	中学の後輩にアドバイスをするために、助動詞を用い、自身の中学時代の反省やそこから得た教訓についてふれながら、1分間のプレゼンテーションを行っている。	
		主	中学の後輩にアドバイスをするために、助動詞を用い、自身の中学時代の反省やそこから得た教訓についてふれながら、1分間のプレゼンテーションを行おうとしている。	
Unit 8 Recommending the Perfect Place to Go	[言語材料] 受動態 [言語活動] 1. 観光名所の写真描写。 2. 姫路城について説明している文章を読む、聞く。 3. 国内のお気に入りの場所について、ペアで1分間やり取りする。 4. 「青い池」について説明している文章を読む、聞く。 5. 国内のおすすめスポットについて案内文を書く。	知	受動態の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、おすすめスポットについて、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思	おすすめスポットについて、受動態を用い、基本情報に加えて3つのポイントをあげながら、6文以上の案内文を書いている。	
		主	おすすめスポットについて、受動態を用い、基本情報に加えて3つのポイントをあげながら、6文以上の案内文を書こうとしている。	
Unit 9 Staying Healthy	[言語材料] 不定詞（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、否定、意味上の主語、in order to, so as to） [言語活動] 1. 保健室の様子写真描写。 2. 健康状態についてやり取りしている文章を読む、聞く。 3. 自分が就寝前にしていることについて、ペアで1分間やり取りする。 4. ストレス・マネジメントについての文章を読む、聞く。 5. 高校生が抱える健康問題とその解消策についてスピーチを行う。	知	不定詞のうち、名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法と、否定、意味上の主語、in order toとso as toの特徴やきまりについて理解し、それを用いて、健康問題の解消策について、論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	
		思	高校生が抱える健康問題の解消策について、不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法と、否定、意味上の主語、in order toやso as toを用い、その策を支持する理由や具体例をあげながら、1分間のスピーチを行っている。	
		主	高校生が抱える健康問題の解消策について、不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法と、否定、意味上の主語、in order toやso as toを用い、その策を支持する理由や具体例をあげながら、1分間のスピーチを行おうとしている。	
Unit 10 Thinking about Your Future	[言語材料] 不定詞（〈SV0+to不定詞〉、〈SV0+原形不定詞〉、〈疑問詞+to不定詞〉、〈seem [appear]+to不定詞〉） [言語活動] 1. 職業体験の写真描写。 2. 将来のキャリアプランについてSNSに投稿された文章を読む、聞く。 3. 卒業後の進路について、ペアで1分間やり取りする。 4. 進路についてやり取りしている文章を読む、聞く。 5. 進路をどのように決めるのがよいかについてディスカッションを行う。	知	不定詞のうち、〈SV0+to不定詞〉、〈SV0+原形不定詞〉、〈疑問詞+to不定詞〉、〈seem [appear]+to不定詞〉の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、進路の決め方について、対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	
		思	進路の決め方について、〈SV0+to不定詞〉、〈SV0+原形不定詞〉、〈疑問詞+to不定詞〉、〈seem [appear]+to不定詞〉を用い、自分の意見とその理由を述べながら、ディスカッションを行っている。	
		主	進路の決め方について、〈SV0+to不定詞〉、〈SV0+原形不定詞〉、〈疑問詞+to不定詞〉、〈seem [appear]+to不定詞〉を用い、自分の意見とその理由を述べながら、ディスカッションを行おうとしている。	
Project 2 Writing an Article About Your School	[言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. 書くトピックを決める。 2. グループをつくり、意見を交換して誰にインタビューするかを決める。 3. トピックについてブレインストーミングする。 4. 要点を整理し、記事を書く。	知	自分たちの学校について、これまでに学んだ表現を活用し、グループでインタビューを行い、内容をブラッシュアップしながら、その情報を整理して、書いて伝える技能を身につけている。	
		思	ローカルニュースサイトに自分たちの学校の紹介記事を投稿するために、これまでに学んだ表現を活用し、グループでインタビューを行い、内容をブラッシュアップしながら、その情報を整理して7文以上の記事を書いている。	

	5. 別のグループの記事を読んで改善できるポイントを指摘し合い、自分たちのグループの記事を修正する。 6. 活動の振り返りを行う。	主	ローカルニュースサイトに自分たちの学校の紹介記事を投稿するために、これまでに学んだ表現を活用し、グループでインタビューを行い、内容をブラッシュアップしながら、その情報を整理して7文以上の記事を書こうとしている。	
Unit 11 Japanese Educational Practices	[言語材料] 動名詞 [言語活動] 1. 教室掃除の写真描写。 2. 日本の学校習慣について書かれた新聞記事の説明を読む、聞く。 3. 家庭内の仕事について、ペアで1分間やり取りする。 4. 学校の掃除について意見を述べ合っている文章を読む、聞く。 5. 学校習慣に対する賛否についてディベートを行う。	知	動名詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、学校習慣について、対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	
		思	学校習慣に対する賛否について、動名詞を用い、自分の意見を支える理由を3つあげながら、ディベートを行っている。	
		主	学校習慣に対する賛否について、動名詞を用い、自分の意見を支える理由を3つあげながら、ディベートを行おうとしている。	
Unit 12 School Events	[言語材料] 分詞 [言語活動] 1. 絵画の鑑賞の写真描写。 2. オープン・キャンパスについて書かれたレポートを読む、聞く。 3. この夏に最も興味深く感じたことについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 運動会についての文章を読む、聞く。 5. 学校行事についてのメールを書く。	知	分詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、学校行事について、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思	学校行事について、分詞を用い、その行事の基本情報に加えてその際体験したことや感想などを交え、8文以上のメールを書いている。	
		主	学校行事について、分詞を用い、その行事の基本情報に加えてその際体験したことや感想などを交え、8文以上のメールを書こうとしている。	
Unit 13 Better Choices	[言語材料] 比較表現 [言語活動] 1. 物件を見る人々の写真描写。 2. 不動産業者からのメールを読む、聞く。 3. どの部屋がよいと思うか、またその理由について、ペアで1分間やり取りする。 4. 部屋選びの相談の文章を読む、聞く。 5. 最適な交通手段について、ディスカッションを行う。	知	比較を表す表現の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、交通手段について、対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	
		思	最適な交通手段を提案するために、比較を表す形式を用い、データを比較するなどしてその手段を支持する理由を述べながら、ディスカッションしている。	
		主	最適な交通手段を提案するために、比較を表す形式を用い、データを比較するなどしてその手段を支持する理由を述べながら、ディスカッションしようとしている。	
Unit 14 A Person You Look Up To	[言語材料] 関係代名詞 [言語活動] 1. サインをもらう写真描写。 2. 尊敬するシェフについて話している文章を読む、聞く。 3. 自分が尊敬している人物とその理由について、ペアで1分間やり取りする。 4. 尊敬する祖母について書かれた文章を読む、聞く。 5. 尊敬する人物を紹介する文章を書く。	知	関係代名詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、尊敬する人物について、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思	尊敬する人物について伝えるために、関係代名詞を用い、その人物の基本情報に加えて尊敬する理由やその人から受けた影響について触れながら、7文以上の紹介文を書いている。	
		主	尊敬する人物について伝えるために、関係代名詞を用い、その人物の基本情報に加えて尊敬する理由やその人から受けた影響について触れながら、7文以上の紹介文を書こうとしている。	
Unit 15 Extra- curricular Activities	[言語材料] 関係副詞 [言語活動] 1. ボランティア活動の写真描写。 2. ボランティアを募集するポスターの文章を読む、聞く。 3. どんなボランティア活動に参加したいかについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 職業体験について話している文章を読む、聞く。 5. ボランティアや職業体験についてプレゼンテーションを行う。	知	関係副詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、ボランティア活動あるいは職場体験について、論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	
		思	自分が参加したボランティア活動あるいは職業体験について、関係副詞を用い、その活動や体験の基本情報に加えて参加した理由や感想といった情報を整理して、プレゼンテーションを行っている。	
		主	自分が参加したボランティア活動あるいは職業体験について、関係副詞を用い、その活動や体験の基本情報に加えて参加した理由や感想といった情報を整理して、プレゼンテーションを行おうとしている。	
Project 3 Plannning a Full-Day	[言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. 活動の企画とその提案理由を考える。	知	学校体験ツアーについて、これまでに学んだ表現を活用し、ペアやグループでその提案理由や課題について話して伝え合う技能を身につけている。	

School Tour	2. ペアになり、互いの企画を聞いて、実現に向けた課題を話し合う。 3. 企画を提案する理由や内容の詳細を整理する。 4. 新しいペアで互いの企画を伝え合い、意見を交換して、3を修正する。 5. グループで1日の計画ををまとめる。 6. 活動の振り返りを行う。	思	海外から自分たちの学校を訪問する高校生のために、これまでに学んだ表現を活用し、ペアやグループでその提案理由や課題についてディスカッションを行いながら、学校体験ツアーの企画を完成させている。	
		主	海外から自分たちの学校を訪問する高校生のために、これまでに学んだ表現を活用し、ペアやグループでその提案理由や課題についてディスカッションを行いながら、学校体験ツアーの企画を完成させようとしている。	
Unit 16 What Can We Do to Save Resources?	[言語材料] 仮定法過去 [言語活動] 1. 食べ物を残している／水を流しっぱなしにしている写真の描写。 2. 食品廃棄についてのプレゼンテーション後、質疑応答している文章を読む、聞く。 3. 食べ物を無駄にしないための方法について、ペアで1分間やり取りする。 4. 水不足問題とその対策についてやり取りしている文章を読む、聞く。 5. 水不足やフードロスの問題とその対処法についてディスカッションを行う。	知	仮定法過去の特徴やきまりについて理解し、それを用いて水不足あるいはフードロスについて、対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	
		思	水不足あるいはフードロスについて、仮定法を用い、その問題について知っていることや、日常的にできる取り組みをあげながら、ディスカッションを行っている。	
		主	水不足あるいはフードロスについて、仮定法を用い、その問題について知っていることや、日常的にできる取り組みをあげながら、ディスカッションを行おうとしている。	
Unit 17 What If It Had Never Happened?	[言語材料] 仮定法過去完了 [言語活動] 1. 道の分岐点に立つ人の写真描写。 2. アメリカ人の箏奏者の来歴について書かれた記事を読む、聞く。 3. 過去にしておけばよかったと思うことについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 大切な存在との出会いについて話している文章を読む、聞く。 5. 自分に大きな影響を与えた人やものとの出会いや出来事についてプレゼンテーションを行う。	知	仮定法過去完了の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、自分に大きな影響を与えた人やものとの出会いや出来事について、論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	
		思	自分に大きな影響を与えた人やものとの出会いや出来事について、仮定法過去完了を用い、もしそれがなかったらという想定を交え、視覚情報を効果的に用いながらプレゼンテーションを行っている。	
		主	自分に大きな影響を与えた人やものとの出会いや出来事について、仮定法過去完了を用い、もしそれがなかったらという想定を交え、視覚情報を効果的に用いながらプレゼンテーションを行おうとしている。	
Unit 18 How Can We Protect the Earth?	[言語材料] 接続詞（等位接続詞、名詞節を導く接続詞） [言語活動] 1. 環境破壊の写真描写。 2. 山火事についての文章を読む、聞く。 3. 地球温暖化を深刻な問題だと考えるかどうか、またその理由について、ペアで1分間やり取りする。 4. プラスチックゴミの問題について読む、聞く。 5. 環境問題についての意見文を書く。	知	等位接続詞と名詞節を導く接続詞の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、環境問題について、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思	環境問題についての考えを伝えるために、等位接続詞や名詞節を導く接続詞を用い、関連するグラフのデータに基づいて根拠を示しながら、7文以上で意見文を書いている。	
		主	クラスメートに環境問題についての考えを伝えるために、等位接続詞や名詞節を導く接続詞を用い、関連するグラフのデータに基づいて根拠を示しながら、7文以上で意見文を書こうとしている。	
Unit 19 Can Technology Make the World A Better Place?	[言語材料] 接続詞（時を表す接続詞、理由・原因を表す接続詞、結果・程度を表す接続詞、目的を表す接続詞、条件を表す接続詞、譲歩を表す接続詞） [言語活動] 1. 病院で働くロボットの写真描写。 2. AIがもたらす影響の是非について書かれた記事を読む、聞く。 3. AIが我々の生活をよりよいものにするかについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 科学技術の発達についてやり取りしている文章を読む、聞く。 5. 科学技術の発達が我々の生活をよりよいものにするかどうかディベートを行う。	知	接続詞のうち、時を表すもの、理由・原因を表すもの、結果・程度を表すもの、目的を表すもの、条件を表すもの、譲歩を表すものの特徴やきまりについて理解し、それを用いて、科学技術の発達の是非について、対話の展開や構成を工夫して話して伝え合う技能を身につけている。	
		思	科学技術の発達が我々の生活をよりよいものにするかどうかについて、接続詞のうち、時を表すもの、理由・原因を表すもの、結果・程度を表すもの、目的を表すもの、条件を表すもの、譲歩を表すものを用い、自分側の意見を支持する理由や根拠をあげ、相手側の意見に対する反論を述べながら、クラスメートとディベートを行っている。	
		主	科学技術の発達が我々の生活をよりよいものにするかどうかについて、接続詞のうち、時を表すもの、理由・原因を表すもの、結果・程度を表すもの、目的を表すもの、条件を表すもの、譲歩を表すものを用い、自分側の意見を支持する理	

			由や根拠をあげ、相手側の意見に対する反論を述べながら、クラスメートとディベートを行おうとしている。	
Unit 20 What Do You Like about Japanese Culture?	[題材] 日本の文化 [言語材料] 名詞構文・無生物主語 [言語活動] 1. 和食または和楽器の写真描写。 2. 好きな日本の文化についてスピーチをしている文章を読む、聞く。 3. 布団とベッドのどちらが好きかについて、ペアで1分間やり取りする。 4. 日本の文化について紹介しているウェブサイトの記事を読む、または聞く。 5. 日本の文化を紹介する記事を書く。	知	名詞構文と無生物主語の特徴やきまりについて理解し、それを用いて、日本の文化について、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	
		思	自分の好きな日本の文化について、名詞構文や無生物主語を用い、その特徴やそれに関わるエピソードを交えて、10文以上の記事を書いている。	
		主	自分の好きな日本の文化について、名詞構文や無生物主語を用い、その特徴やそれに関わる個人的なエピソードを交えて、10文以上の記事を書こうとしている。	
Project 4 Talking about What to Preserve for the Future	[言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. トピックを決め、それを取り上げる理由や考え、エピソードをメモする。 2. ペアになり、互いのプレゼンテーションを聞いて、印象に残ったこと、もっと知りたいことを伝え合う。 3. プレゼンテーションの内容を整理し、視覚資料を用意する。 4. 新しいペアで互いにプレゼンテーションを行い、コメントやアドバイスを交換して、3の原稿の加筆・修正を行う。 5. グループになり、それぞれのプレゼンテーションの動画を作成する。 6. 活動の振り返りを行う。	知	「未来に残したいもの」について、これまでに学んだ表現を活用し、ペア活動やグループ活動を通じて内容をブラッシュアップしながら、伝えたい内容を整理して、話して伝える技能を身につけている。	
		思	国際会議で「未来に残したいもの」について伝えるために、これまでに学んだ表現を活用し、ペア活動やグループ活動を通じて内容をブラッシュアップしながら、伝えたい内容を整理して、2分間のプレゼンテーションを行っている。	
		主	国際会議で「未来に残したいもの」について伝えるために、これまでに学んだ表現を活用し、ペア活動やグループ活動を通じて内容をブラッシュアップしながら、伝えたい内容を整理して、2分間のプレゼンテーションを行おうとしている。	

教科	情報	履修学年	1	教科書 (出版社)	高校情報 I Python (実教出版)
科目	情報 I	必修 または 選択	必修	副教材など	・高校情報 I Python 学習ノート (実教出版) ・事例でまなぶプログラミングの基礎 Python編 (実教出版) ・30時間でマスターOffice2021 (実教出版)
単位数	2				

CALL教室でPCを使いながら教科書と副教材を使った授業を行います。各自のPCを使い、作品・レポート等の課題作成を行います。評価は定期考査を主とし、日頃の授業態度及び作品・レポートなどの提出物で、下記の評価基準に基づいて総合的に行います。学習内容は進度・学習状況により変更します。

1・学習の到達目標

2・重点的に育成すべき資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
・情報に関する科学的な見方・考え方を学び、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。 ・情報社会における法律やルールを正しく理解し、他者とコミュニケーションをとりながら協同する力や、主体的に問題を解決する力を身に付ける。	・情報と情報技術についての基本的な知識と技能。 ・実習を通して学ぶ各種ソフトウェアについての知識と技能。 ・情報社会で生きるために必要となる、情報に関する法規・マナー、個人が果たす役割・責任等についての理解。	・情報に関する科学的な見方・考え方を学び、問題を発見・解決する際に必要となる情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付ける。 ・目的に応じて情報機器やインターネットを正しく活用し、情報の収集・処理・発信ができる。	・情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度や情報モラルを身に付ける。 ・情報社会における様々な問題に対して主体的に取り組むことができる。 ・仲間と協力しながら問題の発見・分析・解決に取り組むことができる。

3・年間授業計画

知・知識及び技能 思・思考力・判断力・表現力等 主・主体的に取り組む態度

単元	学習内容・ 学習の狙い	評価規準	時期	考 査
◇情報社会・情報デザイン ・デジタル □オリエンテーション ●情報セキュリティ ●情報モラル ●情報と情報社会 ●情報に関する法規 ●個人情報 ●知的財産権 ●産業財産権 ●著作権 ●コミュニケーションと情報メディア ●情報デザイン ●デジタル情報 (数値/文字/音/画像) ●コンピュータの構成 ●データの圧縮技術 【クラウドサービス】 【文書作成ソフトウェア】 【画像編集ソフトウェア】	・PCの起動/終了/管理方法、文字の入力、文章の作成方法を習得する。各自アカウントとパスワードでPCを管理する。 ・クラウドサービスの操作を習得する。 ・コミュニケーション形態やメディア、情報デザインと視覚的な表現の工夫について学ぶ。 ・アナログ、デジタル、デジタルデータの特徴、情報量、ビット、バイト、AD変換、DA変換、数値の表現、2進数で表された数値の計算、HTMLについて学ぶ。 ・光の三原色、色の三原色、解像度、階調、音や画像のデジタル化、圧縮の種類や圧縮形式、圧縮の仕組みについて学	知 ・PCからクラウドサービスに各自アカウントでログインし、パスワード変更して管理できる。PCの基本操作や設定、文字入力、文書作成ソフトウェアを使った書類作成などができる。 ・情報の特徴(残存性、複製性、伝搬性)について意味を理解している。 ・不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規、プライバシー権、肖像権、パブリシティ権について理解している。知的財産権の概要について理解し、著作権と伝達者の権利についての法規やルールについて理解している。著作物の利用について理解している。 ・パスワードの重要性、コミュニケーションとメディア、メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性、情報デザイン、Webページの特徴や作成方法、HTMLタグやCSSセレクタの働きについて理解している。 ・アナログとデジタル、2進数/10進数/16進数の相互変換、文字コードの特徴、2進数の簡単な計算、AND/OR/NOTの基本論理回路、音やデジタル化の仕組みなどを理解している。	1学期	期末
		思 ・個人情報の漏洩の例について説明することができる。著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。保護対象や期間について説明することができる。どのようなパスワードが強力か説明できる。 ・コミュニケーションにおける同期/非同期、直接/間接を適切に分類、分かりやすいストーリーボードやスライドを作成、Webサイトの情報構造を考えて適切に設計、意図したデザインにするためのHTMLタグやCSSセレクタを適切に選択、SEO対策について説明、などができる。 ・アナログデータとデジタルデータの違い、ビット数と表現できる情報の数、AD変換の際の誤差、画像のデジタル化、CPUのクロック周波数、圧縮の仕組み、などについて説明できる。 ・2進数/10進数/16進数を用いた表現ができる。	1学期	期末
		主 ・情報セキュリティ技術に興味・関心をもって取り組んでいる。特許の事例について興味・関心を持ち、知的財産権の問題に関し、主体的・意欲的に取り組んでいる。特許情報を検索する活動に積極的に取り組んでいる。著作物の利用に関し、著作権を侵害しないように取り組んでいる。 ・電子メール作成における作法を積極的に身に付けようとしている。	1学期	期末

	ぶ。 ・ハードウェアとソフトウェア、OS、CPUについて学ぶ。		・情報をわかりやすく伝達するために、自ら改善しようとしている。 ・自己評価や相互評価を行い、フィードバックを行って改善しようとしている。 ・Webページの制作に意欲的に取り組んでおり、文字、画像などが適切に表現されている。 ・音のデジタル化、音質とデータ量の関係を調べる実験、標準化定理の学習、加法混色、解像度や階調を変える実験、ペイント系やドロー系のソフトウェア実習、ハードウェアとソフトウェアの学習、ファイル形式が異なる画像データの実習等に興味・関心をもって取り組んでいる。 ・パスワードの重要性について関心を持ち自分で管理できている。		
◇デジタル・ネットワーク ・問題解決 ●ネットワークとプロトコル ●インターネットの仕組み ●Webページの仕組み ●電子メールの仕組み ●情報システムとデータベース ●情報セキュリティ ●安全のための情報技術 ●データの収集と整理 ●モデル化とシミュレーション 【表計算ソフトウェア】	・LANとWAN、集中処理と分散処理、サーバ、IPアドレス、DNS、Webページ、電子メール、RDB、パスワード管理、コンピュータウイルス、不正アクセス、フィルタリング、暗号化、などについて学ぶ ・数値データ/文字データ/画像データの整理、表計算ソフトウェアでの関数利用/データの可視化/データの並べ替えや抽出、統計量とその計算方法、時系列分析/回帰分析、モデル化とシミュレーションについて学ぶ。	知	・LANとWAN、集中処理と分散処理の違い、クライアントとサーバの関係、IPv4やIPv6の表記、ルータの役割、データベースやDBMS、不正アクセス行為、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い、等について理解している。 ・表計算ソフトの関数を使って目的の量を計算/グラフ作成機能/昇順、降順に並べ替え/データの抽出/統計量を計算/ヒストグラム作成、データの分析、検定に関する用語の意味、モデル化やシミュレーションの手順、などについて理解している。	2学期	期末
		思	・クライアントサーバシステムの具体例、ルータの役割、身近なデータベース、ビッグデータやオープンデータ、パスワードの重要性、コンピュータウイルス、ファイアウォール等について理解し、説明できる。 ・Webページ、電子メールについて、データの流れを説明できる。 ・IPv4やIPv6の表記について理解し、2進/10進/16進数で表現できる。 ・必要な情報を得るための適切なグラフを選択、おもな基本統計量について説明、身近な数値データを尺度水準で分類し説明、回帰分析や相関係数について説明、クロス集計方法を説明、などができる。 ・モデルの分類を身のまわりの具体的な事例で説明することができる。 ・シミュレーションを行い、その結果から考察することができる。	2学期	期末
		主	・ping、nslookup、ipconfigコマンドを使った実習に意欲的に取り組んでいる。 ・身近なコンピュータシステム、Webページの仕組みやオープンデータをダウンロードして分析する学習に興味・関心を示している。表計算ソフトウェア等を使った実習に興味・関心を示している。	2学期	期末
◇プログラミング ●アルゴリズムとプログラミング ●配列 ●関数 ○探索のプログラム ○整列のプログラム 【プログラミングソフトウェア】 ◇総合演習	・アルゴリズムとプログラミング、プログラミング言語の分類、プログラムの基本構造、演算子や変数、プログラム作成上の基本ルール、配列、関数、グローバル変数とローカル変数、などについて学ぶ。 ・これまで学んだことを活かした課題作成に取り組む。	知	・アルゴリズムの基本、プログラムの意味、プログラム作成の手順、プログラムにおける変数の役割、プログラム作成上の基本ルール、配列の役割や要素/添字を理解している。 ・文書作成/表計算/画像・動画編集ソフトウェア、各種クラウドサービスの特徴を理解し、必要に応じて使い分けできる。	3学期	学年末
		思	・アルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。 ・各種エラーの違いや、演算子の機能について説明できる。	3学期	学年末
		主	・プログラム実習に意欲的に取り組んでいる。 ・基本構造のプログラム/探索プログラム/整列プログラムの作成を意欲的に取り組んでいる。 ・これまで学んだことを活かし、総合演習に積極的に取り組んでいる。 ・文書作成/表計算/画像・動画編集ソフトウェア、各種クラウドサービスに興味・関心を示し、自ら学びながら活用できている。	3学期	学年末

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(1 学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容・評価計画
1学期	4	①「総合探究」 ガイダンス ＜人間と社会＞	① 1 年間の内容や流れについて理解する。 ＜人間と社会＞ 教科書を使用し、自分にとって、また社会にとって「大切なこと」を見つけ将来の自己の生き方なり方を考える。
	5		②自分と他者にとって大切なことを比較して将来の生き方について考える。
	6	②演習「大切にしたいこと」 ③演習「役割と責任を 考える」	③社会における自己の果たすべき役割と責任を理解し、社会に貢献する姿勢・態度を養う。
	7	④⑤体験活動Ⅰ (事前学習含) ＜探究基礎＞ ⑥探究学習報告会	④活動の目的・留意点を理解する。 ⑤地域の中学3年生に学習活動と部活動を共にする計画に基づいて、特に危険防止と安全面に気をつける。 ＜探究基礎＞ ⑥3年生の探究学習報告会を聞くことで、探究に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。 [評価計画] A: ワークシート B: レポート C: 発表 D: 自己評価 E: 相互評価 A～Eを主な評価材料とし、知識・技能、思考力・表現力・判断力、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づき、総合的に評価する。
2学期	9	＜進路探究Ⅰ＞	＜進路探究Ⅰ＞
	10	①学問探究(大学・学部学科調べ)	①興味・関心のある学部学科について調査研究、報告書作成及び発表活動を行う。
	11	＜人間と社会＞ ②演習「地域社会を築く」 ③④体験活動Ⅱ (事前学習含)	＜人間と社会＞ ②社会の一員であることを自覚し、社会連帯、公正に対する自己の考えを深める。 ③活動の目的・留意点を理解する。 ④地域の消防署、消防団と連携して、防災体験活動を行う。
	12	⑤演習「これからの生き方」	⑤どのようにして幸せな世の中にするのか、グループで討議しながら考えを深める。 [評価計画] A: ワークシート B: レポート C: 発表 D: 自己評価 E: 相互評価 A～Eを主な評価材料とし、知識・技能、思考力・表現力・判断力、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づき、総合的に評価する。
3学期	1	＜探究基礎＞ ①探究学習 (1)課題設定 (2)仮説の立て方 (3)情報収集	＜探究基礎＞ ①外部と連携し探究学習のスパイラルの基礎、基本を身に付ける。
	2	(4)整理・分析 (5)まとめ・評価 (6)発表方法	
	3	＜進路探究Ⅰ＞ ②職業研究	＜進路探究Ⅰ＞ ②興味・関心のある職業について、調査研究、報告書作成及び発表活動を行う。 [評価計画] A: ワークシート B: レポート C: 発表 D: 自己評価 E: 相互評価 A～Eを主な評価材料とし、知識・技能、思考力・表現力・判断力、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づき、総合的に評価する。